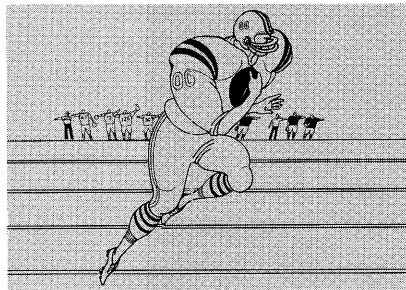




聖徒の道

7

1980



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スパンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジューズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供の頁編集：コニー・ウィルコックス
デザイナー：ロジャー・ギリング

もくじ

日の光栄の結婚の重要性	スパンサー・W・キンボール	1
備えの神権	マービン・K・ガードナー	8
良き羊飼いの代わりに	ダーラ・ラーセン・ハンクス	12
質疑応答		16
オー・キン・ヤン・キャンテ	イボンス・P・レンプ	19
思い出の日	デブラ・ジョージ	21
大切な子	セオドア・M・バートン	22
サミーの新しい服	スティーブ・スタンプ	24
ママ・カンガルーはうば車	キャロル・カベル	26
おもちゃばこ		28
人の行く末を左右する決定	トーマス・S・モンソン	30
あべこべヘンリーと オリンピック	キャサリーン・ジョンソン	36
「みたまがあれば何でも できるんです」	ピラ・H・ジャッジ	39
ローカル・ニュース		44

聖徒の道 7月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約1,700円 1部150円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0471JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512
口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

日の光栄の結婚の 重要性

大管長

スパンサー・W・キンボール

結婚はあらゆる決断の中で最も重大なものであり、永遠にわたって影響を及ぼすものと言えるでしょう。それは、結婚が目前の幸福だけでなく、永遠の喜びにも通じているからです。結婚は当事者のみならず、ふたりの家族とりわけ子供や孫に、引いては後々の子々孫々にまで影響を及ぼすのです。

そこで、大切になってくるのが「だれと結婚するか」ということです。それは、この問いに正しく答えることが、ほかの多くの質問に正しい答えを与えることになるからです。もし皆さんがふさわしい人とふさわしい場所で結婚するならば、永遠にわたって幸福な生活を送る道が限りなく開けることでしょう。

したがって、結婚は一時の心のはずみで決めてはなりません。伴侶の選択は皆さんの全生涯を計画するようなものです。これ以上はできないという入念な計画を立て、考え、祈り、断食をし、数ある決断の中でもこれだけは間違っていないという確信を得る必要があ

ります。

本当の結婚には、心と同様に思いの一致がなければなりません。感情にまかせて決断を下してはなりません。断食と祈りと真剣な熟考によって高められた心と思いで決断する時、この上なく素晴らしい結婚生活を体験することができるのです。

教会員以外の人との結婚

私はこれまで若い人々に対して、教会員以外の人との結婚には危険が伴うことを警告してきました。教会員以外の人と結婚した人は様様の精神的苦労や教会員以外の人と結婚したことからくる幻滅感を味わっているからです。しかし、今日の多くの若人は、自分たちの考えだけで結論を出し、事の善し悪しを決める傾向があるように思われます。

義しい生活をすれば永遠の幸福が保証される神の宮居があるにもかかわらず、多くの人が治安判事や司祭や牧師の下で結婚してい

人並の信仰がなければ先々問題が生じてしょう。標準や人生の生き方、経歴の異なるふたりが結婚することは、非常に難しいことなのです。無論、例外もあるでしょうが、普通は大変な困難を伴います。

ることを、私たちは憂慮し、心を痛めています。

男性、女性のいずれにも言えることですが、一緒に神殿に行くことのできない相手を伴侶に選ぶことは、まったく浅薄なことです。到底福音を受け入れそうもない人に恋する余裕など、皆さんにはないはずです。

もちろん、ごく少数ではありますが、教会員と結婚した非教会員がバプテスマを受けることはあります。善男善女で、教会員と結婚した後教会に入り、それは献身的に活発にしている人もいます。主が彼らを祝福して下さいように。私たちは彼らを誇りに思うと共に、彼らに感謝しています。しかし、このように祝福された人々はほんのわずかです。

また、教会に入らなくても親切で、協力的で、思いやりがあり、伴侶が教会の様式に従って礼拝したり奉仕したりするのを許している人もいます。彼らの上にも神の祝福があるように祈っています。

そのほか結婚するためにだけ教会に入る人も大勢います。このような人々は教会員になっても戒めを守っていくことができません。彼らの多くはやがて離婚します。たとえ離婚はしなくても、多くの場合、家庭の中に様々な問題、とりわけ宗教問題を引き続き抱えることとなります。

しかしながら、大半の人は結婚しても教会に入りません。調査では、最終的に教会に入

るのは7名のうちわずか1名という結果が出ています。つまり教会に入ってもらえる見込みはあまりありません。また、教会員以外の人と結婚した人のおよそ半数が不活発になっています。このようにして親が信仰を放棄すると、宗教を持たないままに育つ子供の数が次第に増加します。

そこで「あの人なら多分結婚してから教会に入ってくれるだろう。だから、結婚してみないことには」と考えるのは、見込みのない賭をしているのと同じです。このように一か八かやってみるといというのは本当に危険なことです。

若い人は往々にしてこのように考えがちです。「そんなことは問題じゃないわ。万事うまくやっていくから。お互いに合わせるようにするわ。彼は私の好きなようにさせてくれると思うし、私も彼に合わせるわ。生活も信仰も私たちなりの方法を見つけ出せばそれでいいわ。」このような考えは決して寛大であるとは言えません。仮にそうであったとしても、主の永遠の計画にとらわれないのは、他人のお金に気前がよいのとどこか似ています。

これまでに多くの女性が涙ながらに私のところにやってきました。彼女たちは教会の中で、イエス・キリストの福音の下で子供たちを育てたいとどんなにか思っていたことでしょう。しかし、実際にはそれができなかったのです。教会で責任を受けたい、什分の一を

納めたい、神殿に行って死者のために身代りの儀式を受けたい、自分自身の儀式も受けたい、永遠に結び固められたい、そして自分の分身である子供たちと永遠に結び固められたいと、彼女たちはどんなに望んだことでしょう。

しかし、門は閉ざされています。彼女たち自らその門を閉じたのです。また、その門のちょうつがいはしばしばさびついています。彼女たちに十分に教える人がいなかったのか、彼女たちが聖典を学び理解しなかったのか、あるいは忠告を無視したのです。そして、教会員以外の人と結婚しました。多分、伴侶は善良な人だったでしょう。ハンサムだったかも知れません。また、教養もあり十分な教育を受けた人であったかも知れません。けれども、最も必要な資格を持っていませんでした。この重大な点を見逃したのです。彼は王国の一員となっておらず、昇栄に導く神権も儀式も正義も持っていなかったのです。

これは、教会員は皆ふさわしくて、非教会員はふさわしくないという意味ではありません。ただ、永遠の結婚は神殿外では行なわれませんし、非教会員は神殿に入ることを許されないということなのです。もちろん、そのような人も福音に心を向け、そのことを証明するならば、教会員になることができます。

しかし、人並の信仰がなければ先々問題が生じるでしょう。標準や人生の生き方、経歴の異なるふたりが結婚することは、非常に難しいことなのです。無論、例外もあるでしょうが、普通は大変な困難を伴います。宗教の違いはいろいろな衝突を生む原因になります。教会に忠実でも、家庭に忠実でも、いずれにせよ争いが起こるからです。

パウロは言っています。「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となん

の係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。」(Ⅱコリント 6:14) 恐らく、パウロは宗教の違いは根本的な相違であることを教えたかったのだと思います。

離婚

神殿以外の場所で行なわれた結婚には、離婚の恐れが大いにあります。教会員の結婚を調査したところ、神殿で結び固められた夫婦の場合、離婚は16組に1組の割合ですが、神殿外で結婚した夫婦については5.7組に1組の割合という結果が出ています。これは、神殿で結び固めを受けた人は、そうでない人に比べて2.5倍も幸福な結婚生活を送れる見込みがあるということです。(私個人としては、それ以上の見込みがあると思っています。) 神殿で結び固められた人々にもたらされる幸福は、彼らに喜びと平安を与え、親子そろって霊的な気持ちで昇栄への道を歩めるようにします。

儀式そのものだけでなく、儀式を受けるまでの準備や儀式に対する深い感謝の念が、そのような結果を生むのです。義しい生活と神殿結婚に備えるという責任感と共に、聖なる結び固めの儀式がひとつに合わされて結婚誓約を厳粛なものとし、家族関係を神聖な強い絆で結ばれたものにするからです。そうしてこそ、この上ない幸福な結婚生活が続くのです。

この世限りか永遠にか

さて、生命が永遠であるならば、当然のことながら真実の結婚生活も永遠でなければなりません。これは最も重要なことであり、またきわめて必然的なことでもあります。治安判事や地元の指導者による民事結婚は、「死がふたりを分かつまで」のものであり、死に

よって終わりを遂げます。墓を越えて続くのは日の光栄の結婚だけです。日の光栄の結婚は、その特別な目的のために建てられ献堂された聖なる神殿で行なわれます。この日の光栄の結婚だけが死を越えて、夫婦関係ならびに親子関係を永続させることができるのです。

民事結婚は、死の訪れと同時に終わりを告げます。これは確かです。主がそのように断言しておられるからです。ところで、このような女性の声を耳にしたことがあります。「でも、私の夫は善良な人でした。ですから、夫とは永遠に結ばれるはずです」と。しかし、たとえそれが真実であっても、そのような考えは間違っています。神が語っておられるのですから、永遠の結婚をする機会があったはずです。神はその僕を通して計画を示して下さいました。しかし、福音を聞き、それを受け入れる機会の一度もなかった人については、若干異なります。彼らは霊界で福音を聞くことができます。そして、地上において彼らのために行なわれる代理の儀式によって、彼らもひとつとなることができます。しかし、主のみ言葉を聞き、聖典を持ち、何度も証を得て、その大切さを知っている私たちは、明日では遅すぎるのです。いくら義しい生活をしていても精々天使にしかなれません。また、私たちは結婚しなくても日の光栄の王国に到達することができますが、導きと恵みを施す天使にしかなれません。

おわかりのように、正義だけがすべてではないのです。正義はふたつの重大な要素のうちの一つですが、正義だけでは不十分です。正義と儀式の両方がなければなりません。

この大切さ、素晴らしさがわかっていたら、だれしも結び固めの儀式を受けるために世界中に出かけて行ってもよいと思うでしょう。距離や金銭やいろいろな状況も、主の聖なる

宮で結ばれるためなら問題にはならないのです。

この教えにはどのような偏見もありません。問題は定められた目標に到達するための計画に従うかどうかです。計画に従わなければ目標に到達することはできません。大学においてさえ、正式に登録して授業を受け、必要な単位を取得しなければ、決して学位は得られないのに、ましてや永遠の計画にいい加減なところがあるはずがないのです。

未婚の男女

若者たちを外から眺めてみると、この本来の務めあるいは希望を十分に達成していないのではないかと思われる若い男女がいます。その中には伝道経験のある人もいれば、学業を一通り終えた人もいます。けれども、彼らは最も大切な結婚の時期を過ぎています。いわゆる適齢期が過ぎ、魅力的で有能で望ましい人物でありながら孤独です。

私たちはそのような方にこのように申し上げます。皆さんは御自分の家族や教会や社会のために働くことによって、世の中に多大の貢献をしています。主は皆さんを愛し、教会も皆さんを愛していることを忘れてはなりません。ただ、女性の方にこのことを申し上げておきます。それは、私たちに男性の思いやりや愛情を支配することはできないということです。しかし、皆さんがその目的を達成できるようにお祈りしています。と同時に、私たちは皆さんに、事永遠に関する限り、本人の力でどうにもならない豊かで貴重な永遠の祝福を取り上げられてしまうことはないとお約束します。主は決して約束を違えられることはありません。義人は皆、最終的にはその資格のある人に与えられるすべてのものを受けるのです。つまり、自らの過ちによって失

男性も女性も身なりを整え、きちんとした服装をして、時勢に遅れないように、また精神的、霊的、肉体的、とりわけ道徳的に好ましくあるように努めて下さい。そのようにすれば天の祝福を授けるという主の約束を心から信頼できるはずです。

うものがないからです。男性も女性も身なりを整え、きちんとした服装をして、時勢に遅れないように、また精神的、霊的、肉体的、とりわけ道徳的に好ましくあるように努めて下さい。そのようにすれば天の祝福を授けるという主の約束を心から信頼できるはずです。

結婚の大切さ

幸福で尊敬されるような立派な結婚をすることは、正常な人ならだれしも第一に目標とするところです。結婚は、堅固で幸福な家庭をつくり、子孫をもうけるために主が定められたものです。ですから、結婚を故意に避ける人は正常とは言えず、また自己の計画を空しくしている人です。

私がここで「正常」という言葉を使ったのは、主がこの地上にアダムとイヴ、すなわち最初の男性と女性を一緒に置き、聖なる結婚の儀式によってふたりを夫婦とし、御自ら「正常」の規準を定められたからです。ふたりはその構造においてまったく異なり、果たす役割も違っていました。主は彼らに「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」（創世1：28）と言われました。しかしほかに儀式を行なわれた様子も見られません。

したがって、結婚するのが正常であり、結婚したら子供をもうけるのが正常であり、当然のことでもあるのです。結婚は天の神が私たちのために計画されたことであって、すべ

ての人は結婚を望み、計画すべきです。それが神の定められた道なのです。

結婚なんてしたくない、子供なんか欲しくない、結婚する気はないし、その必要もないと思っている、などと言う人がいたら、それははなはだ近視眼的な考えだと思います。

多くの人がこの結婚という義務をいとも容易に軽視している事実は、穏やかならぬことです。近年、雑誌や新聞紙上で見られるように、実に多くの人々が独身主義を宣言しています。彼らは独身でいる方がはるかに気楽で、負担もないと思っているのです。しかしそれでは、彼らはいつまでも成長できず、神々になることは永遠にできません。

ある若い女性から、自分が時々デートする相手の若い男性は結婚に関心がないという手紙を受けたことがあります。しかし、私にはモルモン社会の若い男性があれこれ言い訳をして、結婚相手を見つけないようにしているとは思えません。若い男性にも選択の自由があります。だれを相手に選ぶか、選択する権利があるのです。

長老定員会会長をしているひとりの若い男性は、あまりにも忙しすぎて結婚できないということでした。忙しいのは結構なことです。しかし、長老定員会の会長であれ、他の職に召されている者であれ、結婚に伴う義務を果たせないほど多忙な人はだれもいません。

また、祝福文に近いうちに結婚すると約束

結婚なんてしたくない、子供なんか欲しくない、結婚する気はないし、その必要もないと思っている、などと言う人がいたら、それははなはだ近視眼的な考えだと思います。多くの人がこの結婚という義務をいとも容易に軽視している事実は、穏やかならぬことです。

されていたので、結婚に対してあまり努力をしなくなったという若い男性もいました。そこで私は皆さんに、皆さんが受けている祝福師の祝福はすべて、皆さん自身が何らかの努力をしなければ決して成就しないということを申し上げたいと思います。

学業を終えることがまず第一だという男性もいました。しかし、学業を終えるまで結婚を延ばす必要はありません。現に、多くの人が結婚してから学業を終えています。その間、伴侶の大きな支えがあったことは言うまでもありません。

また、結婚しないで、主の天使として日の光栄の王国で昇栄を得ることが望みだという男性もいます。彼には福音が理解できていません。日の光栄の結婚誓約を拒む者は、ひとりとして神の王国において昇栄を得ることはできないからです。

「日の光栄には三種の天界、すなわち三種の階級あり。

而してその最も高きものを得んために、人はこの神権の位（すなわち新しく且つ永遠の結婚誓約を言う）に入らざるべからず。

人もし然せずんばそれを得ることを得ず。

人は他の天界に入るを得べし。されど、それはすなわちその人の光栄の国の行き止りにして、また殖ゆること能わず。」(教義と聖約131：1—4)

そのような人は昇栄も、永遠に子孫をもう

けることもできないのです。

主は教義と聖約第132章で、さらに次のように言っておられます。

「何人もすべてこの誓約を拒絶するを得て、而もわが光栄に入るを許さるる者あらざればなり。」(教義と聖約132：4)

正義や知性や教育の程度は問題ではないのです。新しく且つ永遠の結婚誓約に入らない限り、だれも最高の光栄に進むことはできません。

主のみ言葉を読んでみましょう。これは主が直々に私たちに下されたみ言葉です。

「この新しく且つ永遠の誓約に就きては、こはわが最高完全なる光栄のために定められたるものにして、わが最高完全の光栄を受くる者はこの律法を守らざるべからず。またこれを守るものとす。……

この故に、彼らこの世の外に去る時は、めとり嫁ぎすることなくして彼らは天に於て天使に任命せらる。而してこれらの天使は、彼らよりも遙に高き光栄に適しき、また優れたる光栄、永久の効ある光栄に適しき者に奉仕すべき奉仕の僕なり。

これらの天使はわが律法を守らざりし故に、殖ゆることを得ずしてただ別離孤独にて最高の榮に進み得ることなく救われたるまま永久に變らず。これを以て、彼らは神々にあらず永久に神の天使たるなり。」(教義と聖約132：6，16—17)

中には、「私は天使になれるだけで十分です」と言う人もいるかも知れませんが、皆さんは満足できないでしょう。王になることもできるのに、人々に導きと恵みを施す天使になるだけで満足できる人はいないはずですよ。

そこで重ねて申し上げます。結婚をするのは当然のことです。それは、この世界の山々が創造されるはるか昔の世の初めに、神が定められたからです。「男なしには女はないし、女なしには男はない」(I コリント 11:11)ことを忘れないで下さい。

ロレンゾ・スノー大管長は、日の光栄の結婚の大切さを次のように述べています。

「ふたりの末日聖徒が結婚によってひとつに結ばれる時、ふたりにはその子孫が永遠から永遠に至ることが約束される。ふたりは子孫の救いと昇栄と栄光を永遠に支配し、治める権利と権能を保持すると約束されるのである。たとえこの世で子孫に恵まれなくても、必ずや来世では子孫をもうける機会があるであろう。このほかに望むことがあるだろうか。来世で日の光栄の体を持つ者は男も女も、病気から解放され、言い尽くし難い栄光と美しさに包まれて、子孫の中に位し、彼らを統治し、生命と昇栄と栄光をとこしえに享受するのである。」(ロレンゾ・スノー、*The Deseret Weekly*「デゼレト・ウィークリー」1897年4月3日付、p. 481)

皆さんはこの計画の規模の大きさを想像することができますか。計画が理解できそうですか。ともあれこれだけは覚えておいて下さい。それは、昇栄はイエス・キリストの王国の義なる会員となり、自身のエンダウメントを受けて今も永世にもわたっても結び固められ、その後も義しい生活を続けてはじめて得られるものだという事です。これは人間の解釈ではありません。天父の計画です。その

ことは聖典にはっきりと示されています。無益な因襲でもなければ、空しい宗教的儀式でもありません。理解できない人がいたら、神のことは神のみたまによって理解できるので、その人は理解を得られるように天父に近づく必要があります。

主の計画は不変です。主の律法も不変です。主の計画と律法が変更されることはありません。皆さんや私の考えで律法が影響を受けるということはありません。律法が入れ替わるということもありません。世の多くの人は、主は慈悲深い御方なので最終的には何もなくても祝福を与えて下さると思っています。しかし、憐みが生かす正義を無にすることはできません。大学教授はわずか2、3週間かそこいらのそそくさとした研究に博士の学位を与えはしませんし、主も正義を犠牲にされるほど憐み深くはありません。この限りなく広大な計画にあって、私たちはそれぞれ相応のものを受けるのです。何であれ成り行きにまかせてはなりません。

義にならなかつた結婚をして、ふさわしい生活をして下さい。そして、結婚に伴う役割を十分に果たして下さい。

主が末日聖徒一人一人を祝福して下さい、結婚前も結婚後も正しい決定に正面から取り組むことができるように願っています。私たちの幸福とこの世の業に大きな影響を及ぼすこれらの重要な決断を下す際、私たちに最も大きな力と助けを与えて下さる御方は私たちの天父です。私はこのことを証致します。

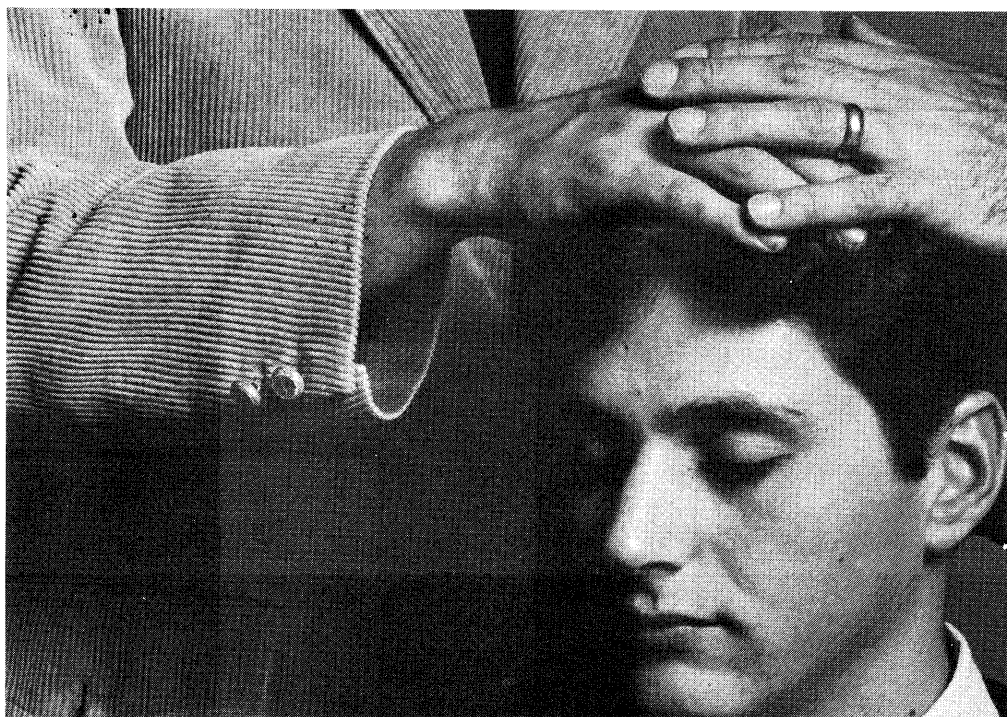


備えの神権

マービン・K・ガードナー

ウ イルフォード・ウッドラフはまだアロン神権の祭司の時であった1834年に、アーカンソーとテネシー両州で伝道の業に携わったが、彼はしばしば聖なる力によって命を守られ、天使の導きと恵みを受けた。アロン神権の大切さについて、彼は後にこう証している。「人は神権のどの職にあらうともそれを恥

としてはならない。……もし神権者がその召しを全力を尽くして遂行するならば、祭司であろうが、使徒であろうが何ら関係ない。……祭司は天使の導きと恵みを受ける鍵を有している。これまで私は使徒だからといって、あるいは七十人、長老だからといって、祭司の職にあった時以上に主の特別の加護を受けた

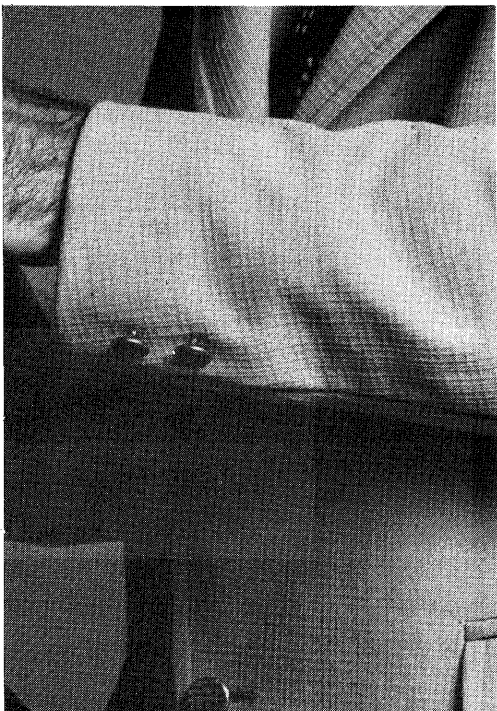


ことはないのである。主は示現や啓示、あるいは聖霊を通して私の行く手に起こる数々の事柄を明らかにしてこられた。」(The Discourses of Wilford Woodruff「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」G・ホーマー・ダラム編, pp. 298, 300)

12歳から18歳までの年齢の男子が普通有するアロン神権は現在も依然としてその効力を持ち、その職の尊厳と権能は変わることがない。

神権者の訓練

若い男性たちは神権を行使する時に、教会にあってひとつの大切な奉仕をすることになる。しかしもっと大切なことは、神権を行使することによって神権の権能の重要性を知ることができるということである。



ケネス・ミクリヤの場合を紹介しよう。彼が福音に改宗した時、セントパウロ・ミノタ第1ワード部の祭司定員会が、監督の指示に従ってバプテスマの儀式を行なう手はずをすべて整えてくれた。17歳の祭司の兄弟が司会を務め、もうひとりが霊的な話をし、別の少年がバプテスマを施すといった具合である。その後、ケネスはアロン神権を受け、執事と教師、祭司の職を与えられた。しかも、聖任の儀式はすべて祭司定員会の仲間が行なってくれたのである。「それは携わったすべての若い神権者たちにとって実に意義深い体験でした」と、セントパウロ・ミノタステーキ部のトーマス・A・ホルト兄弟は語る。「彼らは皆神権を身近に感じるようになりました。そしてそのほとんどが現在宣教師として働いています。」

アロン神権はまた、メルケゼデク神権を受ける備えをさせる神権でもある。執事や教師、祭司には、貴重な現職指導訓練が施される。「アロン神権定員会ガイドブック」は、毎週行なわれる定員会会長会で20—30分の訓練を施す時に使用されるものであるが、これには定員会の管理、委任とフォローアップ、定員会会員に義務を教える、活発化、伝道の準備といった項目ごとに役に立つ情報が記載されている。

これらの訓練会は効果があるか

確かに効果がある、と若い兄弟たちと彼らの神権指導者は口をそろえて言う。ワイオミング州ラベル出身の祭司であるランディー・ベデスは執事定員会会長になった時のことを回想してこう述べている。彼は特別活動の計画から準備、プログラムの進行に至るまですべてを自分で行なおうとした。「でも、もっとよい方法があることを学んだものですから」

と彼は語る。現在、祭司定員会において監督の第一補佐を務める彼は、他の人と責任を分担し、行なうべき事柄に対して明確な指示を与え、よくフォローアップするようにしている。「そうすることによってさらに多くのことができます。それに大勢の人の力が結集できます」とランディーは言う。

このような指導訓練は非常に価値あるものなので、すべての若い兄弟たちがアロン神権の指導的立場に就く機会にあずかれるようにしていただきたい、と中央若い男性会長のニール・D・シェイラー兄弟は語る。シェイラー兄弟は監督として働いていた時に、これを試みた。その結果、定員会への出席が増し、しかも青少年が指導者としての責任を大切に受け入れることがわかったという。

シェイラー兄弟は続けてこう語る。「もちろん、定員会会長は靈感によって召されなければなりません。しかし、もしもすべての少年にその備えができていれば、彼らが別の定員会に移る前に、全員にたとえ数カ月でも定員会会長としての経験を与えた方がよいと思います。そうすれば、彼らは指導性、奉仕、証などについてさらに深いものを学び取ることができます。これらはどれも彼らがメルケゼデク神権者として伝道に出た時に大いに役立つからです。」

伝道の準備

シェイラー会長の言うように、伝道の準備はアロン神権を受けた時に始まる。全世界の指導者は現在、ひとりでも多くの宣教師を送り出そうと努めている。例えば、ロズウェル・ニューメキシコステーク部クロビスワード部のワイラード・R・フィリップス監督は、各執事との最初の面接の際に、宣教師推薦書に必要事項を書き込んでいく。そして予言者、

主、そして監督自身も彼らに伝道の準備をするよう望んでおられることを伝えるのである。その後は毎年1回(祭司とは2回)宣教師推薦書を傍らに、必要条件について話し合いをするという。

ハートフォード・コネチカットステーク部サウシントンワード部のドン・A・フロリアン監督は、カードのファイルを作り、各青少年に年に最低2回聖餐会で話をする責任を与えている。さらに、自分で働いて伝道資金をためるように勧めている。

そのほか、祭司たちにはワード部にいる専任宣教師と親しく交流する機会を与えている。また、宣教師の服装の標準に従うよう教えたり、家庭集会の手伝いやバプテスマを施す責任を与えたりしている。

ホームティーチングも青少年に伝道の備えをさせるのに大いに役立っている。ユタ州プロボのポール・ニールセン兄弟の場合、伝道に出るまでホームティーチャーとして父親と3軒の不活発な家族を担当していた。伝道の召しが来て、宣教師訓練センターに入って間もなく、ポールはそのうちの一家族が神殿に参入し、結び固めの儀式を受けたという知らせを受けたのである。「これを聞いて私は励まされ、一生懸命伝道しようという気になり、スペイン語やレッスンプランを学ぶことにも意欲が湧いてきました。私が伝道活動で味わった最初の実は本当に甘いものでしたから、私は単に立派な宣教師になるだけでなく、それ以上のものを目指そうと心に決めました」と彼は語る。

奉仕の機会

アロン神権定員会の主な目的のひとつは、大切な奉仕の場を提供することである。「アロン神権定員会ガイドブック」には、会長会が

このような定員会活動を計画準備できるよう訓練する方法が記載されている。

ソルトレーク・ウィルフォードステーキ部 グランドビューワード部の場合を例にとってみよう。ここの教師定員会は人知れずに奉仕するという活動をしている。これには普段あまり積極的でない定員会会員も興味をもって参加している。ある時ワード部の若い男性会長が根菜類を貯蔵するための穴を掘っていた。すると定員会の少年たちは夜の間にその仕事を終え、後にカードを残して帰った。そのカードは、コートのかぶりを立て帽子を深くかぶった男の影絵に「グランドビューワード部のまぼろし団」とサインしたものであった。

彼らはまた母親の助けを借りてパンやパイを焼き、近所の家の玄関先に置いて立ち去るのである。ほかにも道路の雪かきをしたり、病人にお見舞いカードを送ったりする。忙しい教師定員会の会長自身も奉仕の報いを得た。定員会会員のひとりが秘かに定員会会長の自転車を修理し、「まぼろし団」のカードを残して行ったからである。

ツーソン・アリゾナ第11ワード部のマイケル・モーラー監督は、自分のワード部の祭司たちは外出のできない人々に定期的な奉仕活動を行っていると語る。彼らは日曜日にそのような人たちのもとを訪れ、短い聖餐の儀式を執り行なったり、親睦を深めたりしている。「これは青少年が自らの責任の重大さを知るとてもよい機会です。そして、それは成人の方々にとってもとても有益な場となっています」とモーラー監督は言う。

青少年は、意義深い奉仕活動を経験することによって、人のためにどのように自分を捧げたらよいかを学ぶのである。ユタ州ペイソンの14歳の教師デール・ドレイパー兄弟は犠牲を払うことを喜びとしている。「犠牲を払う

ことは素晴らしいことだと思います。主のために働いているという気持ちになれるからです。」

そのほかの祝福

アロン神権は、若い男性の生活のあらゆる面に影響を及ぼす。アイダホ州ナンパの17歳の祭司バート・マクナイト兄弟は、神権が父親と自分との関係によいものをもたらしていることを知るようになった。「ぼくは神権について父といろいろ話し合います。生活の中から誘惑を払いのける方法や主にどのように信頼をおいたらよいかについても話し合います。そんな時、それ以外のことでも気楽に話ができるのです。ぼくにとって父は友達です。」

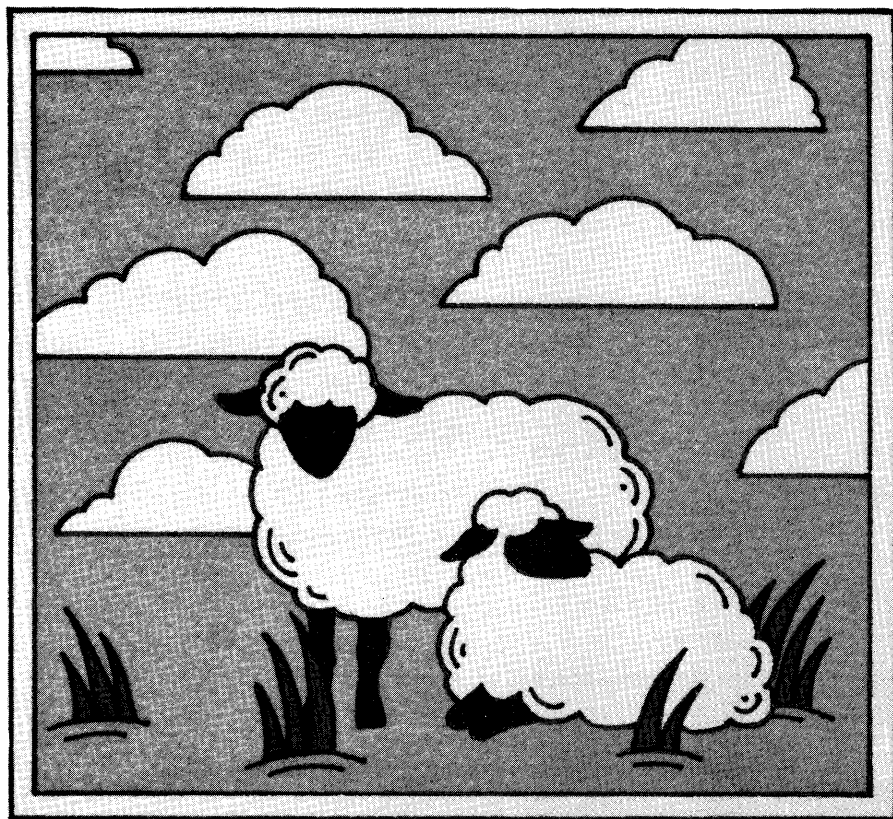
アロン神権の時の様々な経験はまた、若い男性が結婚や父親としての備えをする上で大いに役立っている。事実、指導性、伝道、奉仕について学びながら、将来家長となった時に求められる責任感、協調性、犠牲的精神などを身につけていくのである。若い男性またはアロン神権定員会に求めるものはこれで十分だろうか。

いやまだまだ十分ではない、とスペンサー・W・キンボール大管長は語る。「私たちは、教会の若人に、奉仕を通じて霊を成長させる有意義なことをなす機会を絶えず提供する必要がある。若人は普通、有意義なことをなす機会が数多く与えられたからといって教会から不活発になることはない。福音が人々の生活の中で生きていることを自分自身の目で確かめた青少年は、王国における自分の義務をおろそかにしたり、果たさずにおいたりはない。……

私たちは今、高貴な世代を育てている。……彼らには特別に果たさなければならない仕事がある。』『少年たちは身近に英雄を必要としている』『聖徒の道』1976年8月号, pp.358—59)

良き羊飼いの 代わりに

ダーラ・ラーセン・ハンクス



マーガレットは赤ちゃんの泣き声を聞き、重い目をゆっくりと開けました。筋肉は痛み、頭もすっきりしません。「悪い時に風邪にかかったものなの。」夫は出張中ですし、ふたりの小さな息子は食べ物をほしがることでしょう。そうかと言ってこの町に越して来たばかりのマーガレットには助けを頼む親戚も友人もいません。電話もまだ付いていないのです。

マーガレットは起き上がり、ふらつく足で子供たちの朝食作りにかかりましたが、あまりのつらさに涙がでてきました。とにかくやっとの思いで食事の支度を終え、ベッドに倒れ込んだ時には、熱と悪寒で震えが止まりません。2歳のマーチンと1歳のケリーはまだ幼くて何もわからず、マーガレットの体の上に乗ってきて遊ぼうとします。

10時頃にまた新たな頭痛の種が生まれました。ケリーに母親と同じ症状が出てきたのです。ケリーはぐずつき、母親にまわりついてばかりいます。ケリーの熱が上がるにつれてマーガレットの気力はなくなってゆきます。「自分こそ看病してもらいたい時なのに、どうやって病気の赤ちゃんを看病したらいいのかしら。」その時玄関の戸をノックする音が聞こえ、マーガレットは助かったと思いました。だれかわかりませんが、こうして困っている有様を見ればきっと助けてくれると思ったからです。

熱っばい体のケリーをしっかりと抱いて、寝室からよろめくように出てくるマーガレットのカウンの裾をマーチンが引っぱるようにしてついてきます。戸口に立っていたのは、クック姉妹でした。彼女は前の週の扶助協会

で親しくしてくれた、隣に住む教会員でした。

「ああ、クック姉妹、ようこそ来て下さいました！」マーガレットの言葉は途切れがちでした。

「どうも体の具合がよくありませんの。それに、ケリーにも移ったようなんです。」

「まあ、それは大変ですわね。」クック姉妹は続けて言いました。「きょう、お寄りしたのは、来週の扶助協会のレッスンでお願いしたいことがあったからなんですよ。ご存知かと思いますが、私、社会の教師なんです。」クック姉妹はマーガレットに、何か書き込んだ用紙を渡しました。

「ええ、わかりました。」マーガレットは小さな声で答えながら、目を伏せました。

クック姉妹は相変わらずにぎやかな調子で続けます。「どうもありがとうございます。それじゃ、失礼します。これからマカリマター姉妹と訪問の約束があるものですから。お大事にね。では、ごめん下さい。」

ドアを閉めるマーガレットには、ただ自尊心から丁寧な言葉を返すしかありませんでした。

彼女はうつろな面持ちで居間へ戻り、ケリーを抱いたままソファーに腰をおろしました。気をしっかり持たなければと思い直し、震える手に握りしめていた紙に目をやりました。するとそこには見出しに太線で「わたしの小羊を養いなさい」(ヨハネ21:16)と書かれていました。何という皮肉な巡り合わせでしょう。思わず笑いがこみあげてきましたが、目にはいっぱい涙があふれました。

私たちは、周囲の人々の本当の必要を見落としたり、見過ごしたりすることが日に何度

あることでしょう。私たちが優先順位の判断を誤ったために、どれだけの小羊が食物を与えられないまま床に就いていることでしょうか。いざという時にはこそぞって援助を申し出るのに、人々の生活の小さな危機、それも劇的でないだけで、現実度、切迫度、重要さのどの点をとってみても決して劣るわけではないのですが、そういう小さな危機を私たちは見逃しがちです。多くの人が教会の既定のプログラムに専心する余り、人間の基本的必要を満たす予期しない機会が巡ってきてそれに気づかずに見過してしまいます。自分のしている善いことを数え上げて満足している一方で、残念ながら善いことを行なうというそもそもの定義を完全には理解していないように思われます。

数年前ユタ州立大学のインスティテュートのクラスで、ひとりの素晴らしい教師が感銘深いレッスンをして下さいました。彼は生徒たちに、福音に本当の意味で従うために、実行している事柄を全部あげさせました。リストの大半は、「定例集会に必ず出席するようにしている」、「知恵の言葉を守っている」、「聖典の勉強をしている」、「毎日祈っている」などといった答えでした。ところが教師は、リストにあがった事柄のほとんどは福音に従うことの準備にすぎず、本当の意味で福音に従っていることの証明にはならないと言いました。

教会の集会でどんなに多くのレッスンや話を聞き、語ったとしても、そこで学んだ原則が私たちの行動に反映されなければ、正義を行なっていることにはなりません。正直についてのレッスンを100回聞いたとしても、仕

事の上で正直を貫き通すのは不可能だと考えているならば、教会で過ごす時間に何の益があるのでしょうか。

知恵の言葉をきちんと守っていても、そのことで知恵の言葉を守っていない人より自分の方が勝れていると考えているならば、また聖典の知識がどんなに豊かであっても行ないに愛や寛容が欠けているならば、私たちはパリサイ人と何ら変わらないのではないのでしょうか。

たとえ普段の祈りをしていても、み業を行なう力と導きをもたらす主との相互交流がなければ、私たちはキリストに従う者の中に必ずしも数えられません。病人や悩む人の救いを求めて熱烈に祈ったとしても、忙し過ぎて耳を傾けるべき子供や、助けを欲している病人にかまうことができなければ、それは単なる言葉にすぎないのです。

読み、聴き、集会に出席し、人に良い印象を与えるだけでは不十分です。最も大切なことは主の子供たちのために働き、主の子供たちと共に積極的に奉仕することです。ヤコブの手紙にこう記されています。「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけません。」(ヤコブ1:22) み言葉を行なうとは、自分の周囲の人々に十分心を配り、彼らを参画させ、見せかけや弱点を越えて心の奥底を見ることです。それは、困っている人を助けるために、自分の予定を変更し、不都合を甘んじて受け、必要であれば約束をも後回しにするほどの思いやりを示すことです。

言うまでもなく、律法に厳格に従うことは大切ですし、それでこそ律法の精神を知るこ

とができます。救い主はこう言われました。「それもしなければならぬが、これも見のがしてはならない。」(マタイ23:23)

多くの末日聖徒が、このような心からの関心によって人生を変えるような体験をしています。これから紹介する話は実際にあった話です。名前だけは仮の名を使わせていただきます。

ローソン姉妹は講演と旅行、そのほか雑用で忙しい毎日を送っています。そうしたある夜、ロングビーチステーク部の若い女性たちに道徳についての講演をしました。その中に彼女の話を胸を打たれて、いても立ってもいられなくなったジョイスというひとりの女性がいきました。

集会後、ローソン姉妹の周りには話をしたい女性たちが集まってきました。ジョイスはその中に入って行く勇気もなく、さりとて立ち去ることもできずに、ひとりて座っていました。そしてみんなが帰った後も、後ろの目立たない席でじっと待っていました。すでに夜も遅くなっていました。ローソン姉妹は疲れ切っていましたので、少しでも早く家族の待つ家へ帰りたと思っていました。これからかなりの距離をドライブして帰らなければならなかったからです。

ステーク部の指導者たちが電灯を消し、建物の鍵をかけ始めました。ジョイスはそわそわしますが、なかなか決心がつかません。ローソン姉妹が机の上のものをまとめている間も何度か帰ってしまおうと腰を浮かせましたが、どうしても帰ることができませんでした。そこで意を決したようにローソン姉妹の方を向くと、早口でこう言いました。「ローソン姉

妹、すみませんが、お話してもよろしいでしょうか。」ローソン姉妹は疲れも忘れ、ジョイスの腕を取って建物の正面にある階段の所へ連れていくと、ふたりで話し始めました。ジョイスは少しずつ心の思いを打ち明けました。彼女は取り返しのつかない重大な過ちを犯すところでした。しかし、ローソン姉妹の助言と助けによって、その過ちを避けることができたのでした。

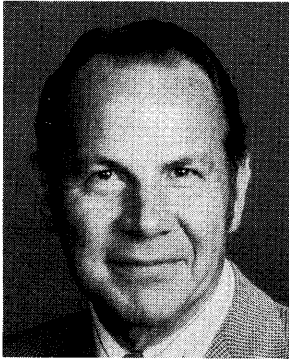
ジョイスの家はローソン姉妹の家とは反対方向に80キロも行った所にありました。そこでローソン姉妹はその晩、ジョイスを送って往復160キロ車を走らせることになりました。その道々、彼女はジョイスの気持ちを聞き、ジョイスの身になって考え、ジョイスが今行なおうとしていることがどんなに重大なことをやさしく説いたのです。ジョイスは車を降りる時、自分の問題を両親に打ち明け、二度とそのような窮地に陥ることのないようにすると約束しました。

それから何年か経って、ロサンゼルス神殿でローソン姉妹のもとにひとりの美しい花嫁が駆け寄ってきました。「私を覚えていらっしゃいますか。」花嫁が尋ねました。「ジョイスです。5年前、ガーデングローブで重大な過ちを犯すところを救っていただいたあのジョイスです。ローソン姉妹が、あの晩、私の話を聞いて助けて下さったおかげで、きょうこうして正しい方法で結婚できるのです。」

主の小羊を養う時に大きな喜びが得られます。そして今日ほどそのような謙遜な羊飼いが必要とされている時はありません。「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。」

質 疑 応 答

本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



リンジー・R・カーチス
カリフォルニア・オークランド伝道部長

「私はこれまでいつも祈るようにと教えられてきました。しかし、しばしば祈りの答えが得られないように感じられるのです。自分なりに信仰を持ち、ふさわしい生活をしているつもりですが、一体どうしたらよいのでしょうか。」

多くの方々が同じような問題を抱えています。私たちはだれでも、祈りの答えが得られずに悩み苦しむことがあると思います。それは私たちが困難な状況にある時です。万事うまくいってれば、祈りが答えられるかどうか心配などしないのが普通です。ところが、困っている時や特別な助けが必要な時には、特に熱心に祈りの答えを求めます。そして、

答えが得られないと、ますます助けが必要に思えてきます。

そのような状況に置かれれば、「父なる神様どこにおいでですか」、「私の祈りをお聞きでしょうか」と問いたくなるのも無理からぬことです。

このような疑問に答えるには、神が不変の御方であることを思い起こす必要があります。神は無分別で気まぐれな御方ではありません。前もって定められた原則に従って万事を動かしておられるのです。私たちを決してひとりにはしないという約束を与えて下さったことを忘れてはなりません。

そこで私が思うに、祈りの答えが得られないのは、主に問題があるのではなく、問題は求めている私たち、もしくはその内容にあるようです。

祈りの答えを遠ざけている共通の問題は何でしょうか。そのひとつは、性急に求め過ぎることです。私たちは祈りの答えがすぐに与えられるものと考えることがあります。しかし、主はそのような約束はしておられませんし、しばらく時間を置いた方が私たちのためになることもあるのです。祈り終えて、直ちに、あるいは一日、一週間、また一カ月たっても答えが得られないと、私たちはすぐに、主が祈りに答えて下さらないのではないだろうかと思い込んでしまいます。もちろん、これは重大な誤りです。祈り続ければ、答えが得られると約束されているのです。しかし、祈り求めなくとも答えを下さるとか、祈れば即座に答えて下さるという約束はありません。

2番目の問題は、注意して聴こうとしないことです。私たちの五感はいつも外部からの

刺激の渦の中にさらされています。ひざまずいて祈れば床の感触が、腕を組めば、その感触が残ります。また、家の前を走るトラックの騒音、窓ガラスを打つ雨音、部屋のすみで時を刻む時計の音なども耳に入ります。これでは、靈的に十分な静けさを得て、主が語りかけられる事柄を聴くことが困難になるのも無理ありません。しかし、主のみ言葉を聴く努力をしなければ、状況は一層悪化してしまいます。私たちは感情を込めて真心から声を出して祈ってはいますが、祈り終わるとすぐに布団に潜り込んだり大急ぎで会社へ出かけたり、祈ったことに関係のない話を家族としたりしています。

このような状態で、どうして主からの答えに耳を傾けることができるのでしょうか。最良の状態で靈的な交わりを持つ方法を習得するには、実践と忍耐が必要です。重ねて申しますが、問題は主にあるのではなく、私たちの側にあるのです。主は惜しみなく私たちに答えを与えて下さると思います。しかし、私たちが聴こうとしなければ、あるいは心の波長が合わなければ、その答えを受けられませんし、理解することもできません。その結果、本当の問題は私たちが聴かないことにあるのに、主は祈りを聴いて下さらないと思ひ込んでしまうのです。

このような外的な妨げだけでなく、内的な妨げも排除し、みたまを感じる時間を取るようになれば、答えを聴けるようになります。

このほか、祈りの答えを得ようとする時、どのような点に注意すればよいでしょうか。第1に、私たちに代わって主がすべてを行な

りヴァ・カウドリは主から特別な啓示を受けて、この原則を学びました。主は次のように述べておられます。「見よ、汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。」(教義と聖約9:7)

それから、主は願ひ求める過程について説明しておられます。まず心の中でその問題についてよく思い計り、関連する様々な要素を吟味し、結論を出します。その上で、主に承認や指示、勧告などを祈り求めるのです。

第2に、「求むべきにあらざるものを」(教義と聖約8:10) 求めないように注意することです。時々私たちは、最善の利益をもたらさないことを主に願ひ求めてしまいます。そのような場合、主は思いやりのある御方ですから、願ひを受け入れては下さりません。しかし、その願ひが強すぎると、私たちは自分の求める答え以外にはまったく耳を貸さなくなります。これはよく見かける状態です。主は害になるものを与えようとはされませんので、結局私たちの方は少しも祈りに答えて下さらないと思ひ込んでしまうのです。

第3に、祈りの答えを得るために進んで行動することです。借金から逃れられるように祈りながら、だれかが奇跡的に訪れて必要な金銭を与えてくれるのをただ座って待っているだけでは、失望を味わうだけでしょう。そのような祈りをする場合は、借金を返済できるように自ら一生懸命に働かなければなりません。心の正しい人々のところへ導かれるようにと祈る宣教師は、みたまに導かれるままに自ら足を運ばなければなりません。また、証が得られるように祈り求める人々は、聖典を研究し、戒めに従って生活することにより

自らの責任を果たさなければなりません。

第4に、答えが与えられた時に、それを認識できるようになることです。これまでお話しした事柄をすべて行なっていながら、主が告げようとしておられることを聞き取れない人がいます。このような人々の問題は、主の声を知らないということにあるようです。つまり、祈りの答えを受けた時にどのような感覚が働くかを知らないのです。ですから、答えを受けてもそれを認識できないわけです。

祈りの答えは様々な方法で与えられます。ジョセフ・スミスは何度もみ使いの訪れを受けました。モーセは燃えるしばの中からの主のみ声を聴きました。夢の中で示現を見る人もいます。正直にお話すれば、私はそのような夢や示現を見たことも、幕のかなたから語りかける声を実際に聴いたこともありません。しかし、私はイノスの次の言葉に共感を覚えます。「私がこのように精神こめて祈っている中に、ごらん……主の御声が私の心に聞えて仰せになった。」(イノス10)

これは普通、主が私の祈りに答えて下さる方法です。主はオリヴァ・カウドリに、「汝の心を内に燃やさん」(教義と聖約9:8)と言われました。この気持ちは人によりそれぞれ異なっていると、私は理解しています。ある人は胸の中に温かいものを感じ、またある人は心の高揚を覚えます。さらに別の気持ちを感じる人もいます。

しかし、忘れてならないのは、主が多くの人々に告げておられるように、主が祈りに答えて下さる方法は心を内に燃やすことただひとつではないということです。ジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミ

スに授けられた啓示の中で、主は祈りの答えとして「悟りを開かしめ」、「心安かれと告げ」、「汝の智と情とに告げ」、「汝に悦びを充さん」と述べておられます(教義と聖約6:15, 23; 8:2; 11:13—14参照)。主は私たちの状態に最も適した方法で語られるのです。そこで私たちは、みたまが共にいて下さる時や、主が語りかけて下さる時に、どのような気持ちを感じるかを知っておくことが必要です。

時には祈りに対して否定的な答えを受けることがあります。そのような答えは、心が次第に鈍くなる(教義と聖約9:9参照)、暗い気持ちを感じる、不安になって落ち着かない、などのかたちをとって表われます。

私の説明はわかりにくいかと思いますが、だれでも一度ならず実際に経験していることでしょう。私たちが正義に基づいて主からの助けと勧告を求める時に、これまでお話しした原則を心に留めるならば、祈りの答えを受けてそれを解釈する能力が増し加わることでしよう。

私たちの御父は無慈悲な御方ではありませんし、不親切な御方でもありません。私たちを愛し、私たちの成長と進歩を願っておられます。私たちの祈りに喜んで答えて下さいます。イエスの弟ヤコブを通して、主は次のように約束しておられます。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」(ヤコブ1:5—6)



オー・キン・ヤン・キャンテ (優しい心)

これは実際にあった話を小説風に書き直したものです。

母の名前は「優しい心」という意味です。私は母の名前から人生で一番大切な教訓を学びました。

イボンヌ・P・レンブ

私たちが住んでいるネバダ州の小さな町では、人が母をバージニアと呼んでいますが、母の本当の名前はオー・キン・ヤン・キャンテといいます。オー・キン・ヤン・キャンテというのは、インディアンという言葉で「優しい心」という意味です。このインディアンの名前は母にぴったりです。母は日の出前の春の朝のように穏やかな人です。それでいて自分で決めたことは必ずやり遂げ、いつも人を助けることばかり考えています。母はいつも人生の恵みに心から感謝しています。

私の父は白人で、何年も前に亡くなりました。それからというもの、正式な教育を受け

たことのない母は、生計を立てるために必死で働いてきました。私たち母子は別居して暮らしましたが、それは両親の結婚が原因ではなく、貧乏のせいでした。私たちのような家族はほかにもたくさんいて、町の人たちも親切で優しく、人種差別もほとんど見られませんでした。

今から12年前のこと、宣教師がメッセージを携えてやってきました。そこで私の母オー・キン・ヤン・キャンテはその優しい心を動かされ、素晴らしい理解と洞察力を得て、外から見てもわかるほど変わったのでした。愛と平安に満ちた母の態度はとても際立っていま

した。

それは仕事の中にもはっきりと現われています。毎週月曜日になると、母はウィルソン夫人、ブラウン夫人、デクロイ夫人の家を掃除します。火曜日にはドレーパー夫人とブラックバーン夫人のためにアイロンかけをし、水曜日にはプライス夫人の家を訪れます。プライス夫人は数年前に卒中で倒れ、半身不随の状態で、とても貧しい生活を送っていました。プライス夫人は毎週、「来週こそきっと助けていただいた分はお支払いします」と言うのですが、その都度母はこう答えるのです。「先週余分にいただきましたので、お代はまだ結構です。お金のことは気になさらないで下さい。」母がプライス夫人から報酬を受け取ったことがないことは私もよく知っていました。母はプライス夫人には今助けが必要であり、しかも、彼女の誇りを傷つけないようにすることが大切だということを優しく私に告げました。「優しい心」の持ち主である母は、その両方を忠実にこなしたのです。

水曜日はほかにも特別なことがありました。扶助協会の集会がある日だったからです。母は姉妹たちと親しく交わることが大好きでした。「ねえ、考えてもごらん。学校に行ったこともない私が、天国のような遠い所のことについて教えて下さる人たちとこうしてお話できる。集会に出ている時も帰ってから、自分が大切な人間なんだってつくづく感じるの。」そう言って母は扶助協会で教わった讃美歌を一週間毎日のように口ずさむのでした。

木曜日になると、母は町に一軒しかない店の奥の部屋を掃除します。袋や箱を動かすのは非常に骨が折れましたが、これ以上に収入の良い仕事はありませんでした。

金曜日には人々の繕い物や縫い物をします。土曜日にはパーティーのお菓子を焼きます。そして日曜日は休息の日です。日曜学校と聖餐会の間の午後の時間、母は私が本を読むのを熱心に聴いています。母の旺盛な知識欲にもっと応えてあげればよかったと今でも思う

ほどです。

ある日学校の友達から、一緒に歩いていたあのレーマン人はだれですかと何気なく尋ねられた時に、私は生涯で最も大きな誘惑を受けた気がしました。一緒に歩いていたのは、母です。その時とつきに私は、自分は白人で通る感じました。別に隠すつもりはなかったのですが、私は「ああ、あの人はオー・キン・ヤン・キャンテよ」と言ってごまかし、話題を変えてしまいました。

そのことは、ソルトレーク・シティの看護学校へ通うことになって荷造りを始めた時にも私の脳裏から離れませんでした。私を看護学校へ入れることなど母の力では到底達成できないと思っていたので、こうして実際に行けるようになったことは私たちにとって大きな喜びでした。私は一生懸命に勉強し、学校が好きでたまりませんでした。やがて産科の夏季アルバイトの話があり、私はそれを引き受けることにしました。私の帰省をとっても楽しみにしていた母も快く賛成してくれました。そして、そのアルバイトで学費を支払うことができたのです。

その年の秋、同じ故郷の町から、ある娘さんが学校に入ることになって、その家族が私の母も一緒に連れて来たいといってきました。その家族のソルトレークの親戚の家には、みんなが泊まれる部屋が十分あるということでした。そこで、なかなか承知してくれなかった母も私に会いたい一心で一緒に来ることになりました。

ところが私の方は、母に会いたいという気持ちよりも、ふたりが一緒にいる所を見られたくないという思いの方が強かったのです。私は自分に自信がなかったのです。それで学校では人気者であり、しかもアリゾナ出身のレーマン人の良い友達がありながら、自分がインディアンとの混血であることはだれにも言っていませんでした。

母は町に着くと電話をかけてきました。落ち着いた声でしたが、どことなく疲れた様子



ちい とも 小さなお友だちへ



わたしは4さいのとき、フロリダ州
メルボルンに、住んでいました。
そこにいる間、向いに住むクレンスト
ンさんの家へゆき、同じ年のサドとよ
く遊びました。また、サドのお母さん
とも、仲よしでした。

ある日、わたしは、サドのお母さん
に、ジョセフ・スミスのお話をしました。
クレンストンさんは、わたしの家にきて、
お母さんから、教会について少し
話を聞きました。お母さんは、サドの
お兄さんを、カブ・スカウトにさそい
ました。こうして、月例隊集会には、

家族で来るようになりました。

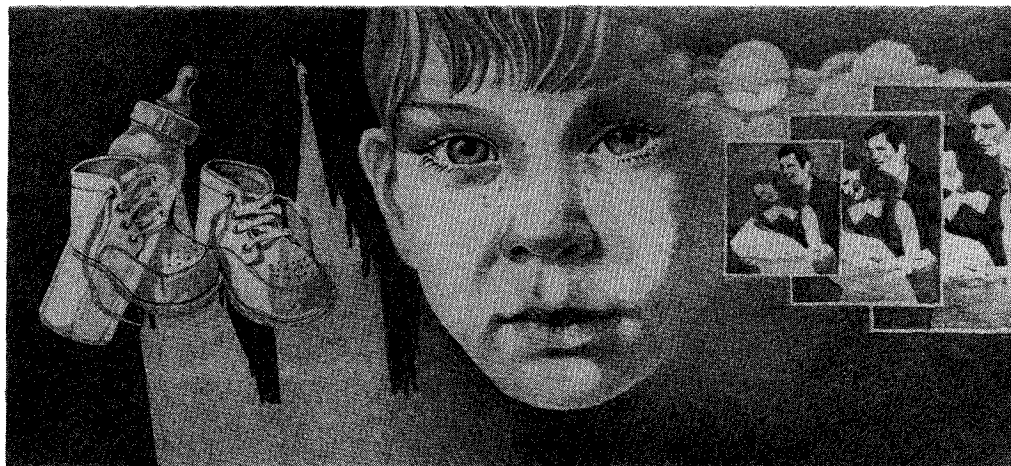
わたしたち家族は、特別な家庭の夕
べを開き、クレンストーン一家をしょう
たいしました。そして、宣教師に、「モ
ルモンとは」のえいがを見せてもらっ
たのです。2カ月後、わたしのお父さ
んは、クレンストーン一家に、バプテス
マをほどこしました。

数年前、わたしたち家族は、クレン
ストーン家族のひっこしたタイタスビル
の聖さん会に出席しました。サドのお
母さんは、ジョセフ・スミスの話を聞
いた思い出と証を、のべていました。

おもいで 思い出の白

デブラ・ジョージ





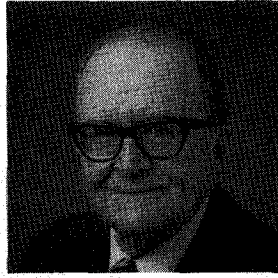
むかし、とても愛しあっている夫婦がいて、子どもがほしくてたまりませんでした。でも、なん年たってもなかなか子どもに恵まれません。ふたりは天父に、子どもを与えてくださるようにと、祈りました。そして、天父はその祈りに、こたえてくださったのです。

ある日、この夫婦に電話がかかってきて、遠くの町に、赤ちゃんを養子に出したい夫婦がいると知らせてきました。さっそく、期待にむねをふくらませて、ふたりは車にのりこみました。町に着き、ある家に入りました。部屋に入ると、大きなベッドのまん中で、小さな赤ちゃんがふたりを待っていました。一目見て、夫婦は、その小さな男の子が好きになりました。ふたりは

赤ちゃんを連れて帰り、自分の子どもとして育てようと、話し合いました。

でも、ひとつだけ心配なことがありました。それは、この赤ちゃんを本当に自分たちの子どもにすることができるだろうかということでした。まず、夫婦は法律によって、この赤ちゃんを養うことができるかどうか、調べられるのです。ふたりが愛しあっているか、りっぱでしあわせな家庭をもっているか、そして、養うに十分なお金があるかどうかを、調べられるのです。

そのために、時間がかかります。赤ちゃんを愛するふたりの気持ちは、強くなるばかりです。とうとう、この夫婦に、養子にしてもよいというきよかが出されました。こうして、赤ちゃんは、夫婦にとってとても大切な子ども



大切な子

セオドア・M・バートン長老

となりました。もう、赤ちゃんをふたりから取り上げられることはないのです。しかし、それもこの地上にいる間だけです。この夫婦は、それよりももっと、赤ちゃんを愛していました。ふたりはイエスさまを信じ、イエスさまには、それ以上の力があることを知っていました。イエスさまが、夫婦と子どもをこの世だけでなく、永遠にむすび固めることができると信じていました。

養子にするための書類にサインした後、赤ちゃんに名前がつけられました。夫婦は、その子を連れて、神殿に行きました。3人は白い衣しように身をつつんで、神殿のせいだんにひざまずきました。特別な神権をもつ人が、小さな男の子を新しいお父さんとお母さん

にむすび固めました。こうして、赤ちゃんは、この世だけでなく、死んだ後の世でも、この夫婦の大切な子どもになったのです。もし、この家族がただしい行ないをし、おたがいに愛しあってゆくなら、家族はイエスさまといっしょにくらすことができます。この赤ちゃんは、この夫婦にとって、とくべつな子どもなのです。

これは実際にあった話です。なぜなら、わたしがその大切な子どもの父親だからです。母親であるわたしの妻も同じように、その子をとても愛しています。愛ある家庭に育つ子どもはすべて、自分がとても大切な子どもであると、感じる事ができるのです。



サミーの新しい服

スティーブ・スタンプ

ハムスターのホセアが通りかかると、へびのサミーが、いそがしそうに古い皮をぬいでいるところでした。

「ハハハッ。サミー、なんだっておかしなことうして。かいこが、はい出すみたいじゃないか。」と、ホセアがいきました。

「春になると、へびは古い皮をぬいで、新しく着がえるんだ。」

「どうしてだい。古いのだって にあつてたじゃないか。」

「毎年、成長するから、小さくなるんだ。冬みんしている間に、古い皮の下に、新しいのができているんだ。」

春に目をさますと、古いのはカラカラで、おなかのところから やぶれるん

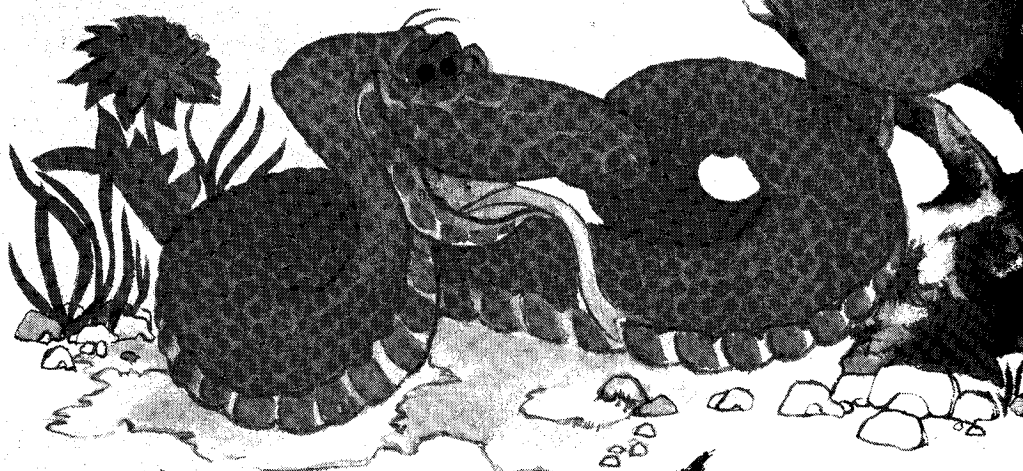
だ。毎年、生まれかわるみたいさ。」

「たいへんだね。君の皮は、のびないのかい。ほら、こんなふうに。」と、ホセアは小さな円い顔を、プッとピンポン玉のように ふくらませました。

「だめだよ。わかってないね。ぼくのは、のみみたいにのびやしないんだ。とがった岩やあついすなの上をはったり、あらいぐまのバニーのするどい歯からも身を守るために、強くなくちゃいけないんだからね。」と、少しおこったように、サミーはいいました。

「フーン。わかったよ。そういうた
めの皮^{かわ}は、のびたりしないものなのか。」
ホセアは、こたえました。

ホセアがちょこんと、うしろ足^{あし}です
わり、サミーがモゾモゾと皮^{かわ}をぬぐと
ころを見^みていました。とうとう、サミ
ーは、古い皮^{かわ}をぬぎ終^おわりました。
そして、ニョロニョロとはいながら、



ホッとため息^{いき}をついて、いいました。

「ああ、やっと、ぼくの仕^{しごと}事^{ごと}が終^おわ
った。なんだか、おなかがすいたな。
なにか食^たべる物^{もの}はと……。」

サミーのビーズ玉^{たまご}のような目^めが、目^め
の前^{まえ}の まるまるとした小^{ちい}さなハムス
ターにとまりました。

ホセアは、いちもくさん^だにかけ出^だ
しました。そして、ふりかえっていいま
した。

「バイバイ、サミー。君^{きみ}のごはんが
すんだら、また会^あおうね。」と。



ママ・カンガルーは うば^{ぐるま}車

キャロル・カペル

あか
赤 ちゃんカンガルーは、スプーンに
のるくらいちい小さいって、しん信じられ
ますか。本当ほんとうなんですよ。だって、生
まれたてのカンガルーは、1センチく
らいで、おも重さはなんと1グラム、お母
さんの体重たいじゆうの3万まん分の1なんですから。
カンガルーは、オーストラリアう生まれ
で、あかいろ赤色のカンガルーが、一番多くい
ます。

け
毛けがなく、いろピンク色をした赤ちゃん
カンガルーやこ子どもカンガルーは、ほん本

のうてきに、お母さんの安全あんぜんなふくろ
に自分じぶんで入ります。お母さんのおなか
のふくろに、いっしょうけんめい、まえ前
足あしを使って入るのです。(ふくろのある
動物どうぶつのことを、ゆうたいるい有袋類といます。)

赤ちゃんはふくろに入ると、お母さ
んのおっぱいにすいつきます。自分で
は、まだ飲む力のちからはありませんが、お母
さんには 赤ちゃんくちの口くちの中にミルク

を入れることのできる 特別とくべつな筋肉きんにくの
働きはたらがあるのです。

6カ月は、お母さんにくっついたま
までです。赤ちゃんには、ちっそく息そくしない





ように、息をする特別な器管があるの
でだいじょうぶ。

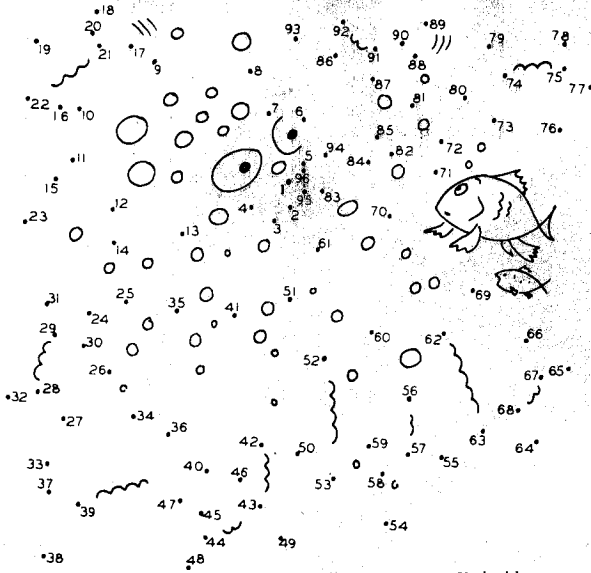
カンガルーは、5カ月にもなると、
毛なみも美しくなり お母さんのふく
ろから、外をのぞいて見ることができ
るようになります。ときどき、お母さん
カンガルーが、草を食べに立ち止ま
ると ふくろからとびおりて、はねま
わったり、草を食べたりします。なに
か、こわいことがおこると、お母さん
のところへ急いでもどってきて、頭か
らふくろの中へとびこみます。はずか
しがり屋でおとなしい性質のカンガ
ルーですが、あぶないときはいつでも、
強い後足としっぽを使って、身を守り

ます。

大きくなると、お母さんのそばでい
っしょにはねます。このようにして後
足を強くしてジャンプのれんしゅうを
すると、おとなになって3~9メー
トルもジャンプできるようになります。
子どものころは、あぶないときは、お
母さんのふくろの中で、守ってもらい
ます。でも、お母さんが、てきに追
いかけられ、追いつめられそうになると、
赤ちゃんを草むらの上にとっと出して、
全そく力でにげます。きけんが去ると、
お母さんは、子どもをとり、またも
どって来ます。ママ・カンガルーって、
うば車みたいですね。

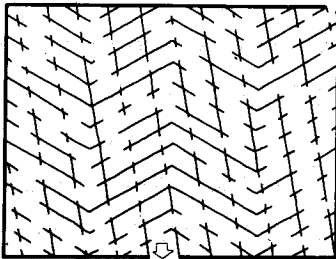


おもちゃばこ



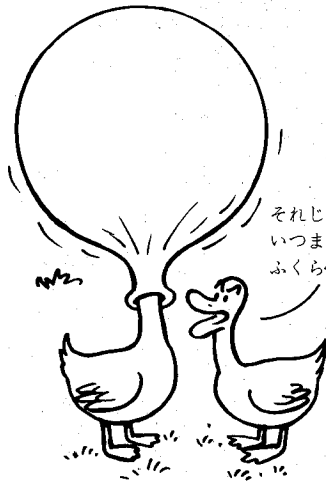
これは、いったいなんだろう！

ななめみちの めいろ



いりぐち

でぐち



それじゃあ、
いつまでたっても
ふくらまないよ。

(20ページより続く)

でした。なにしろこれまで、家族の葬式でネバダ州のレノへ2回出かけたきりで、家から180キロ以上遠くへ出かけたことがないので。私はタクシーでその家へ行きました。緑の屋根の大きな白い家でした。生垣はきれいに刈り込まれ、庭もよく手入れされています。その上、使用人までいます。これほどの大金持をこれまで見たことがありませんでした。私は、ちょうどドアを入った所で待っていた母と抱き合いました。初めて見る母の涙が瞳に光っていました。

ところが、家の人たちがそんな私たちを見て、とても驚いたようでした。恐らくこれまでレーマン人を見たことがなかったのでしょう。私は実の娘でありながら、彼らの目を見た時、一瞬母から離れたい気持ちに襲われました。

ネバダから来た友人たちは早速相談を始めました。その結果母は、あらかじめ予定されていた台所ではなく、食堂で私たちと一緒に席に着きました。私は食事の間、彼らではなく自分の母のために、屈辱と恥で顔を赤らめ、ひとり孤独をかみしめていました。

その夜、母は枕と毛布と粗末な寝台をあてがわれて台所で寝ました。

ネバダの友人たちは2、3日観光することにしていたのですが、それを取り止めて翌朝帰ることになりました。母は神殿を見るのを楽しみにしていましたが、それも果たすことができませんでした。私は言う言葉もありませんでした。しかし母は私の顔を赤かっ色の手でそっとなでながら、こう言いました。「イボンヌ、一生懸命頑張って立派な人になってよ。私に親切にして下さったこの素晴らしい皆さんのようにね。」母は心の底からそう思っていたのです。私は鋭く胸を刺される思いがしました。母が帰った後、私はひとりで泣き続けました。

翌年の夏、帰省した私は友達から、母がソルトレークから帰った後、手の込んだ美しいベッドカバーを作っていたことを知らされま

した。友達は私へのプレゼントだろうというのですが、私はそんなものを見たことも、聞いたこともありませんでした。

ある晩、寝つけないままにベッドから起きてみると、母が薄明りの下で何とも素晴らしいベッドカバーを編んでいるではありませんか。白い枠の中に赤とピンクのバラが散りばめてあり、その周りを小さな緑色の葉が包んでいる図柄でした。

「まあ、お母さん！」私は叫びました。「それ、私の？」

「いいえ。」

私はそれ以上聞かない方がよいと思いました。

私が学校に帰る準備をしていると、母もそのベッドカバーを丁寧にたたんで箱に入れていました。「これを、ソルトレークで泊めていただいたお家の皆さんに届けておくれでないかい。お礼のしるしにね。」

私の目には涙があふれてきました。「あの人たちは母さんに冷たくした人たちよ。何よ、あの偉ぶった態度は。何もあげる必要なんかないわ。」私はくやしくて泣けてきました。

しかし母は優しくこう言うのです。「私は教会員よ。いつも良いことを教わっているわ。赦さなくちゃ。不親切に親切をもって報いる機会はそれほどないと思うの。私は救い主や教会の人たちがこうしてほしいと思われるようなことをしたいのよ。悪い気持ちを抱いてはいけないわ。あの方たちのために祈り、助けることですよ。」

私は横を向きしました。涙が静かにほおをつたって落ちました。母は彼らを赦したばかりでなく、母を恥じた私をも赦してくれていたのです。でも、私はどうすればそんな自分を赦すことができるでしょう。

優しい母はもうひとつのプレゼントを私に用意してくれました。私にレーマン人の名前と白人の名前を付けてくれたのです。そのレーマン人の名前は「トワニカ」。「進んで努力する」という意味です。



人の行く末を 左右する決定

十二使徒定員会会員

トーマス・S・モンソン

青少年は今日、重大な決定の時に直面している。現代の世界は、おとぎの国でも、夢の世界でもない。常に最善を尽くすことが要求される競い合いの世界である。そして、もし最善の努力を結集することができるならば、必ずやそれは報いとなって返ってくるであろう。

私たちは次のような神聖な真理をよく覚えておく必要があります。つまり、神の律法への従順は自由と永遠の生命をもたらし、不従順は束縛と死を招くという真理を。

歴史は小さな決断によって変わると語った人がいますが、人の生涯についても同じことが言えます。私たちの生涯は、私たちの下す決定のいかんにかかっています。言い換えれば、日々の決定が人の行く末を決めるのです。

決定には永遠の結果が伴います。例えば、予言者ノアの時代の人々は、ノアが箱舟を造るのを見て、笑い、あざけりました。しかし、雨が降り始め、しかもその雨が一向に止みそうにないのを見て、あざけり笑うのを止めました。彼らは神の予言者の教えに反する決定を下したのです。その決定の代価として自分の命を失うことになったのです。

レーマンとレミュエルの決定についても同じことが言えます。レーマンとレミュエルは、出かけて行って、レーバンの真鍮版を手に入

れるようにと命じられました。その命令に彼らはどう応えたと聖典に記されているでしょうか。彼らはその命令が「むつかしいことだと言って不平を鳴ら」し、命令に従わないことにしました。そして祝福を失ったのです。しかし、ニーファイはその命令を受けた時、次のような言葉でそれに応えています。「私は主が命じたもうたことを行って行く。」(I ニーファイ 3 : 7) そう言って、ニーファイは命令に従いました。そして、従順のもたらす祝福を得たのです。

また 14 歳の少年が、「知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい」(ヤコブ 1 : 5) という言葉を読んで決心したことを考えてみて下さい。彼はヤコブの手紙にある言葉を試みてみよう決心し、森に入って祈りました。それは取るに足らないささいな決定だったのでしょうか。いいえ、これこそ全人類、特に末日聖徒イエス・キリ

スト教会の会員すべてに影響を及ぼす決定だったのです。

さらに13世紀に、モンゴル民族がモンゴリアを発ち、現在のトルコやイラン一帯を征服し、ヨーロッパまで侵略してきた時、ひとつの重大な決定が下されました。モンゴル民族はウィーンの城門を前にして立っていました。西欧とその文明の滅亡の日は間近に迫っていました。モンゴル軍の指導者スベダイ汗は、軍隊を率いて西欧文化を壊滅せんと態勢を整えていたのです。ところが、その時予期せぬことが起こりました。モンゴルからの使者が、オグダイ汗の死の知らせを携えてきたのです。スベダイ汗はそのまま軍隊を進めて、西欧諸国を征服するか、それともモンゴルに帰って、西欧征服の野望を捨てるか、どちらかの決定をしなければなりません。瞬時の決定、しかしその結果は測り知れないほど大きな意味を持っているのです。

第二次世界大戦の記録を読むと、この時代の最大の決定は、アイゼンハワー将軍と上級将校たちがフランスのノルマンジー侵攻を決定したことかも知れません。ドイツ軍の将校たちは、連合軍の上陸地点はカレーの海岸に間違いないと信じて疑いませんでした。そして強力な軍隊をカレー海岸に集結させ、上陸してくる軍隊を海に追い返す計画でした。しかし、この防御作戦は失敗でした。連合軍はノルマンジーに上陸し、かん木の間を縫って進軍してきたのです。そして、ドイツ軍が反撃を開始する前に、海岸線から遠く進攻していたのです。こうして第二次世界大戦はにわかには終結の途をたどることとなりました。ひとつの決定が行く末を決めたのです。

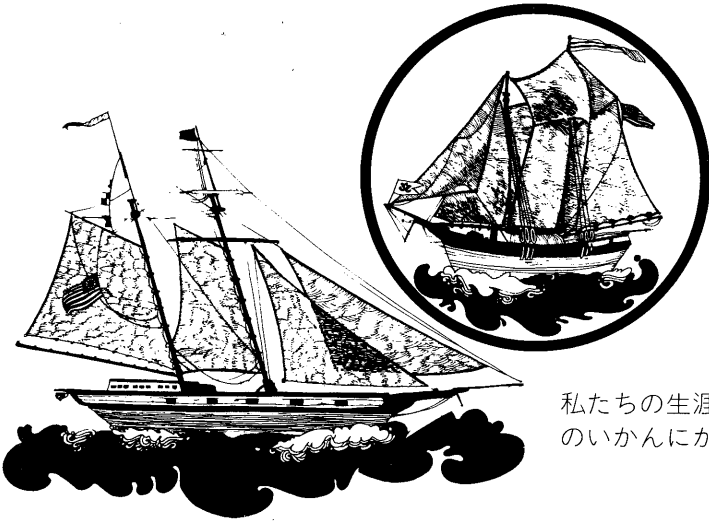
青少年の皆さんも含めて、私たちは皆、時としてきわめて重要な決定を下さなければならないことがあります。私たちが下す決定は、

ノルマンジーの海岸に上陸したり、ウィーンの城門に向かってモンゴル軍と共に立つようなことでないかもしれません。また、ノアの時代の人々のような命をかける決定の場に立たされることもないかもしれません。しかし、若人のみなさんは様々な場において物事を決定しなければなりません。しかも、その決定はどれも皆とても大切なものばかりです。

最も重要な決定を3つ挙げるとしたら、それは何でしょうか。まず1番目に、私たちはだれを信じるかということです。2番目に、だれと結婚するかという決定です。3番目に、私の生涯の仕事は何かということです。

第1に、私たちはだれを信じればよいのでしょうか。天父を信頼すべきだと、私は思います。私たちは皆、イエス・キリストのこの福音が真実かどうか自分自身で確かめる責任があります。モルモン経やその他の標準聖典を読み、その教えに従って、それをよく知る必要があります。聖典に、この教えを行なう者はこれが神からのものか、人からのものかわかるであろうと約束されているからです。この問いかけは、測り知れない結果をもたらすからです。

1959年から1962年まで、私はカナダのトロントに本部を置くカナダ伝道部を管理する特権を与えられました。そこで私とモンソン姉妹は、450名の素晴らしい若い男女と共に働きました。その間にモンソン姉妹が経験した非常に意義深い出来事がありますので、ここで少しそのことに触れてみたいと思います。ある日曜日、いつもは忙しい伝道本部ですが、その日はモンソン姉妹しかいませんでした。すると電話が鳴り、電話の向こうからオランダ訛りの声でこう尋ねてきました。「そちらはモルモン教会の本部ですか。」モンソン姉妹は、トロント付近ではここが中心になっています



私たちの生涯は、私たちの下す決定のいかんにかかっています。

が、何かお助けすることでもございますかと問い返しました。すると電話の相手の方はこう言いました。「ええ、私たちオランダから来たのですが、モルモンのことを耳にしたものですから。私たち、モルモンについてもっと知りたいのです。」モンソン姉妹は良い宣教師らしく、「そうですね。喜んでお手伝いしたいと思います」と答えました。優しい声の相手の婦人はこう言いました。「今、子供たちが水ぼうそうにかかっています。それで、子供たちがよくなるまで待っていただけたら、喜んで宣教師の訪問を受けたいと思います。」モンソン姉妹は後日宣教師を送ることを約束して、電話を切りました。

モンソン姉妹は大喜びで、本部のふたりの宣教師に言いました。「皆さん、素晴らしい求道者よ。」宣教師たちもすぐに訪問を約束してくれました。しかし、一部の宣教師がよくするように、このふたりの宣教師も訪問を引き延ばしたのです。一日が一週間になり、一週間が数週間になりました。モンソン姉妹が、

「長老たち、今晚はあのオランダ人の家族を訪問していただけますか」と尋ねると、きまってこう返ってくるのです。「すみません。今晚はとても忙しいものですから。でも必ず近いうちに訪問します。」それから2、3日して、モンソン姉妹が再び尋ねます。「あのオランダ人の家族はいかがですか。今晚にでも訪問していただけますか。」すると再び次のような返事です。「ええ、今晚は忙しく無理ですが、訪問予定を組んでおきます。」ついにモンソン姉妹はしびれを切らしてこう言いました。「もし今晚、あのオランダ人の家族を訪問できないようでしたら、私と主人のふたりで訪問します。」長老たちはあわてて、「今晚、訪問するよう計画します」と答えました。

こうして宣教師は、愛にあふれる家庭を訪れ、家族の人々に福音を教えました。そして、家族全員が教会員になりました。その家族とは、ジェイコブ・ディエガー一家です。ディエガー兄弟はすぐに長老定員会の会長になりました。その後、彼が勤めているフィリップ

ス社は彼をメキシコに転勤させました。その地で彼は、教会のために傑出した働きをしました。後にディエガー兄弟はオランダで副伝道部長として幾人かの伝道部長に仕え、さらに十二使徒地区代表にも召されました。そして現在、七十人第一定員会会員に召され、東南アジアの代表役員として働いています。

ここでこうお尋ねしたいと思います。宣教師がディエガー一家を訪問したのは、重大な決定ではなかったでしょうか。モンソン姉妹が、「もしあなた方が行かなければ、私たちが行きます」と言ったのは、とても大切な決定ではなかったでしょうか。また、カナダのトロントにある伝道本部に電話して、「宣教師を送っていただけませんか」と言ったのは、ディエガー一家にとって大切な決定ではなかったでしょうか。私は、これらの決定が単にディエガー一家だけでなく、他の大勢の人々に永遠の影響をもたらすことを証します。なぜなら、彼はこの福音を英語、オランダ語、ドイツ語、スペイン語、インドネシア語で教えられる人であり、そして現在、中国語で福音を宣べ伝えられるように勉強しているからです。私はこう皆さんにお尋ねしたいと思います。「私たちはだれを信じているのでしょうか」と。

私たちの改宗はディエガー兄弟姉妹のように劇的なものではないかもしれませんが。しかし各人にとって等しく重大で、末長く影響を与えることなのです。確かにこれは重大な決定です。私たちは今一度、真理を探究する私たちの責任をよく考えてみようではありませんか。

次に第2の質問、「だれと結婚するか」ということですが、このことに関して私はどうしたか説明したいと思います。ユタ大学で一年生のためのダンスパーティーがあり、私はウェスト高校出身の女性と踊っていました。そ

の時、イースト高校出身のひとりの女性がパートナーと踊っているのが目に入りました。その女性はフランシス・ジョンソンといましたが、当時私は彼女のことを知りませんでした。けれども私は一目見て、彼女と話をしてみたいと思いました。しかし、彼女は踊りながら、私の視界から消え、私たちはそのまま3カ月ほど会う機会がありませんでした。ところが、ある日、ソルトレーク・シティの東13番南2番街通りで電車を待っていると、そこであの女性を見かけました。私は一瞬自分の目を疑いました。ダンスパーティーで見かけたあの女性が、別の女性とそれに若い男性と立っているのです。しかも連れの男性はかつて同じ学校にいたことのある人です。しかし、残念ながら私は彼の名前を覚えていませんでした。私はどうすべきか決心しなければなりません。私は考えました。「これは勇気のいる決心だぞ。どうすればいいのだろうか。」その瞬間、心の中に次の言葉が浮かんできました。「決定の時が来た時には、準備の時はすでに過ぎ去っている。」

私は勇気をふりしぼり、当たって砕けようと思いました。私は連れの男性の方へつかつかと歩いて行ってこう言いました。「こんにちは、ところで君は、僕と同じ学校に通っていなかったかい。」ところが彼も、「君の名前を思い出せないんだけど」と言うのです。そこで私たちは互いに名前を紹介し合いました。それから彼は、後に私の妻となったその女性を紹介してくれたのです。その日、私は自分の住所録にフランシス・ヒバリー・ジョンソンを訪問することを書いておきました。そして、実際に訪問したのです。この決定はこれまで私が行なった中で最も重要な決定でした。若人の皆さんは、自分の生活の中でこれと同じような決定をしなければならないことがあ

ると思います。そして、だれとデートするのではなく、だれと結婚するかを決める非常に大切な責任を負っているのです。

ブルース・R・マッコンキー長老は、「正しい人と、正しい時に、正しい所で、正しい権能によって結婚することほど重要なものはない」と述べています。皆さんがあまりにも性急に婚約することのないようにと願っています。私たちは皆、結婚しようと思っている人をよく知り、ふたりが共通の永遠の目的を心に描き、同じ道を目指していることを確認することが大切です。

次に3番目の質問、「私の生涯の仕事は何か」ということですが、私はこのような質問をしてくる帰還宣教師にこれまで何度も助言してきました。宣教師はしばしば自分の伝道部長に倣う傾向があります。伝道部長が教育者であれば、大勢の宣教師が教育者になろうとします。伝道部長がビジネスマンであれば、宣教師のほとんどがビジネスを勉強するようになります。また、伝道部長が医者であれば、宣教師の多くは医者になりたいと考えようになります。と言うのも、人は元来、自分が尊敬し、敬愛する人に倣いたいと望むからです。帰還宣教師や若人に与える私の助言は、皆さんが楽しめる分野で生涯の仕事を見いだせるように、研究し、備えてほしいということです。なぜなら、皆さんは自分の生涯の大部分をその分野で過ごすことになるからです。しかも、それは知性を磨き、自分の才能や能力を最大限に生かすことのできる分野でなければなりません。そして、最終的に自分の伴侶や子供たちを養うために十分なお金を得ることのできる分野でなければなりません。これだけの仕事を見つけることはとてもできなとおっしゃるかもしれません。しかし、これらの条件は私たちが一生の仕事を選ぶ上で

とても大切なことです。ここに、デビッド・O・マッケイ大管長が好んで用いられた言葉があります。「それを行なうか行なわないか決めるのは君だ。はるかかなたの目的に挑戦するか、現状に満足するか決めるのは君しかない。」(クリントン・T・ホーエル, "It's up to You" *Design for Living* 『君次第だ』「人生の設計」p.30)

また準備をよく行なうことによって、考える力と決断力が養われます。私たちの中には、自分の失敗の言い訳をしようとする人が大勢います。第二次世界大戦の初頭、联合国側の指導者のひとりに英国のスリム子爵がいました。彼はこの戦争中にひとつの非常に重大な決定をしました。彼は終戦後しばらく経って、この1940年、カラトウムでの戦闘で下した決定を振り返って次のように語りました。「計画が失敗に終わった多くの将軍と同じように、私もいろいろな言い訳をすることができました。しかし私は、その失敗の理由はただひとつ、私にあると思いました。私の眼前に2つの行動計画が示された時、私は優秀な司令官がとるような勇気ある道を選びませんでした。私は別の道を選びました。怖かったからです。」

皆さんは恐れることのないようにしていただきたいと思います。皆さんが、「私は化学工業の勉強をするほど頭がよくないので、それほど一生懸命勉強しなくてもよい分野を選びたいと思います」などと言うことのないように願っています。困難な道に挑戦し、自分の才能を十分に活用するようにしていただきたいと思います。天父は必ず皆さんがその責任を果たせるようにして下さるはずで。たとえば、期待した成果を上げることができなくても、落胆してはなりません。立ち上がってもう一度努力することです。

チェスター・W・ニミッツ海軍大将の経験

宣教師がディエガー一家を訪問したのは、重大な決定ではなかったでしょうか。



について考えてみましょう。海軍少尉として学校を卒業した後、初めて彼に与えられたのが、古ぼけた一隻の駆逐艦でした。艦名をデカチャーと言いました。ニミッツ少尉にできることは、まずこの古ぼけた駆逐艦を航海ができるようにすることでした。そして最初の航海の日、彼は船を座礁させてしまいました。直ちに彼は軍法会議にかけられました。しかし、ニミッツ將軍は一度の失敗でくじけるような人ではありませんでした。彼はどうしたと思いますか。その失敗を教訓にして、世界最強の海軍力をほこる太平洋艦隊の司令長官になったのです。立派な人はたとえ失敗してもくじけないことを、彼は私たちに示してくれました。

私はだれを信じたらよいのでしょうか。私はだれと結婚すればよいのでしょうか。私の生涯の仕事は何でしょうか。私たちは神の助けなしにはいかなる決定もできません。しかも私たちが努力し、願うならば、天父の導きはすべての人に与えられるはずで。教義と聖約第9章を読んで理解するようにお勧めし

ます。この聖句はよく見過ごしにされますが、私たちにとって大切な教訓を与えています。私たちが重要な決定を下そうとする時、予言者ジョセフ・スミスを通して主が勧告されたように、天父の導きを求めることです。主はこの第9章の中で、予言者ジョセフ・スミスを通してオリヴァ・カウドリにこう勧告しておられます。

「見よ、汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。

されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。

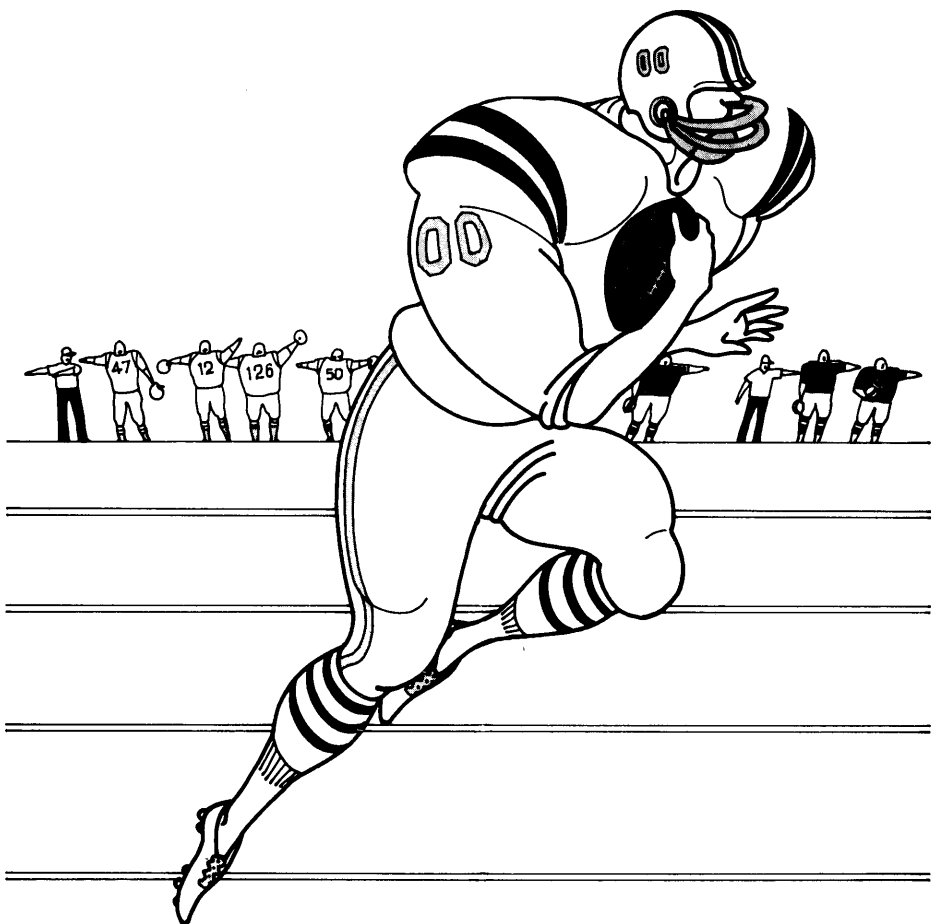
されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。」

(教義と聖約9：7－9)

これが、今日私たちに与えられている神のみ言葉です。

あべこべヘンリー

キャサリン・ジョーンズ, レアード・ロバーツ



とオリンピック

皆 さんはここの一番という大事な時に見事にしくじってしまった、というような経験がないだろうか。もしそのような経験がある人なら、これから話す「あべこべヘンリー」の気持ちもよくわかっていただけることと思う。

ヘンリー・マーシュ、12歳。フットボールの大好きな中学生である。ヘンリーが入っている学校のチームがテキサス州で優勝し、隣のオクラホマ州の優勝校とシーズン最後の試合を行なった時は、何もかもうまくいっていた。ヘンリーにとって、その日は記念すべき日となるはずであった。

ヘンリーは第3クォーターまでフィールドの片すみで、自分の仲間がゴール目がけて走り、蹴り、投げる有様をじっと見ていた。第4クォーターに入り、試合時間も残り少なくなってきた。まだ両チーム同点である。やっとヘンリーの出番が回ってきた。闘志満々である。相手チームがゴール目がけてキックしてきた。ヘンリーのチームのレシーバーは必死にボールを追い、それを受けようとした。ところが突然思いがけないことが起こった。レシーバーがボールをこぼし、そのボールがヘンリーの腕の中にすっぽりに入ったのである。だれよりもヘンリーが一番驚いた。

フットボールを始めて間もない少年に、一世一代のチャンスが巡ってきたのである。大歓声にヘンリーは一瞬たじろいだが、それで

もすぐさま全速力で駆け出した。目の前には自分をブロックする者がだれもいない。まったく信じられないことである。観衆もまた信じられないといった風であった。それもそのはず、ボールを受けたヘンリーが全くあべこべの方向に走っていたからである。相手チームも何が何やらわからなくなってしまった。それでもとにかく、あまり遠くに行かないうちに、ヘンリーはタックルされた。しかし、なかなか倒れないのだ。やがて歓声はヤジにかわり、そこでようやくヘンリーは自分が何をしていたかに気づいた。恥をかくとはい、まさにこのことである。

あれから何年かたち、「あべこべヘンリー」に向けられる観衆の声も変わった。今ヘンリーの耳にこだましているのは、1976年、カナダのモントリオール・オリンピックスタジアムで、合衆国を代表する選手たちと共に聞いた歓声である。

中学でフットボールを始めてオリンピック選手にまでなったヘンリーが私たちに教えてくれるものは、どんな大きな失敗をしてもそれは問題ではない、大切なのはそこから立ち直ってどこまで成長するかであるということである。ヘンリーは中学2年生の時に、州内の陸上競技大会の長距離で第7位に入った。そして中学3年生になるまで、毎日16キロの距離を走ってきた。家族と共にハワイへ引っ

越してからも、州のクロスカンントリーで優勝した。しかし、そんなヘンリーもすべてがうまく行ったわけではなかった。ブリガム・ヤング大学に入った最初の年は、陸上競技の選抜遠征チームから外されていた。

ヘンリーをどう扱ったものか考えあぐねていたコーチは、「障害物競走はどうか」と言ってきた。障害物競走とは、途中にある幾つかのハードルや水たまりを飛び越えて、3.2キロのコースを走る厳しい競技である。その年、ヘンリーはこの競技で全国の大学第7位に入った。ヘンリー自身にもこの障害物競走が性に合っているようであった。

ヘンリー・マーシュは、伝道についてあれこれ思い悩んだことはなかった。と言うもの、伝道に出ることがヘンリーにとって長年の夢だったからである。召しが来た時も、まったくちゅうちょしなかった。

2年間の伝道を終えて帰ってきたヘンリーは、新しく生まれかわっていた。筋肉こそ幾分なまっていたが、その内には新たな力が蓄えられていたのである。そしてその力はヘンリーのあらゆる行動に重大な変化をもたらした。ヘンリーはその時を振り返りながら、こう語っている。「もし伝道に行かなかつたら、オリンピック選手になれなかったと思います。」

しかし、試しはまだまだ続いた。当時はとても奨学金を受けられる力もなかったし、コーチたちからもあまり期待されていなかった。しばらくの間は、ただ走ることが楽しくて走っていたのである。しかし、疑問も湧いてきた。自分はチームにとって必要なのだろうか。自分には才能があるのだろうか。こんなことをやっけて一人前になれるのだろうか。

その年の1月、障害物競走の選手が新たに2名追加されると同時に、ヘンリーはあっさりチームをやめた。そして、自分自身についてもう一度じっくりと考え直してみた。

それから自分にこう言い聞かせたのである。

「ヘンリー、もし今ここでやめたら、自分にどれほどの力があるかわからずに終わってしまうじゃないか。」それから1週間後、ヘンリーは再びチームに戻ってきた。

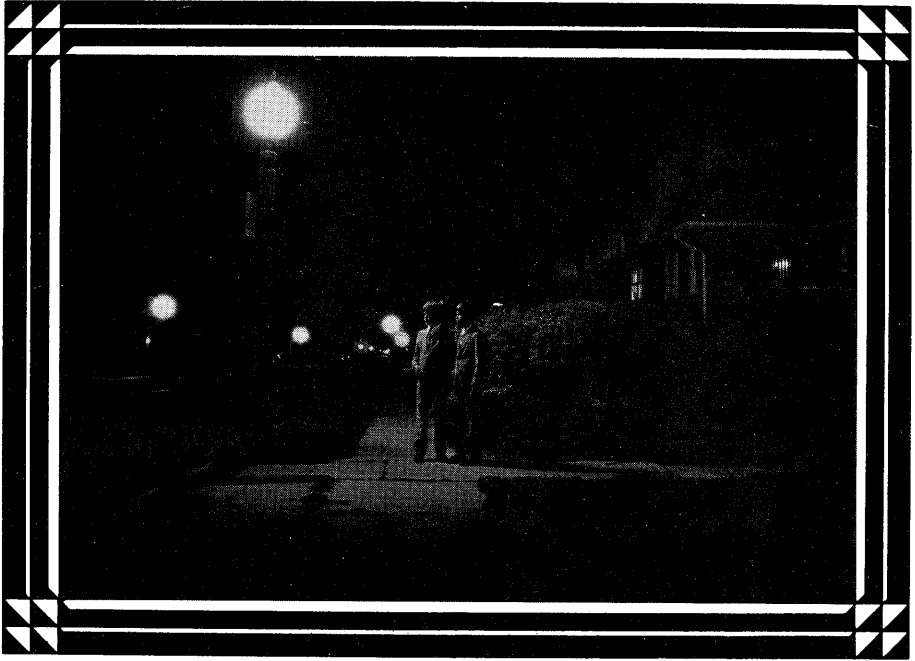
これが、競技者としてのヘンリーの転機となった。時には前と同じように失敗することもあった。しかし、その度に少しずつ進歩した。プレオリンピックでは、2位の選手に22秒の差をつけて優勝し、モンリオールオリンピックでは、アメリカ人選手の中で決勝進出を果たしたのは彼ただひとりであった。

合衆国大統領や全世界から集まってきた一流選手と共に技を競う。夢ではないかとわが身をつねってみたほどであった。成績は10位に終わったが、自己最高記録を4秒更新した。障害物競走で最も油がのってくるのは29歳頃だと言われている。ヘンリーはこの時わずか21歳、出場選手の中では、2番目の若さであった。

そして1979年7月8日、プエルトリコで開催されたパンアメリカン競技大会の障害物競走で、この「あべこべヘンリー」はついに金メダルを獲得した。タイムは8分43秒5。自己最高は8分21秒5である。「生涯最高の日です」とヘンリーは語っていた。

それから3週間もたたない7月25日、ソビエトのスパルタキアード大会3,000メートル障害でも、ヘンリーは2つ目の金メダルを手にした。ソビエトの主な15共和国が参加して開催されたこのプレオリンピック大会で、ヘンリーが見せたラストスパートは、「恐るべき精神力」と人々をうならせた。記録は8分28秒9であった。

1980年のオリンピックを前にして、ヘンリーは自分の目標を簡潔にこう述べていた。「私の目標は、明日は今日よりも速く走るということです。」



「みたまがあれば 何でもできるんです」

ピラ・H・ジャッジ

サム・エガーズは、カリフォルニア州サンタアナに住む12歳の少年である。ある日、サムは何か考え深げに学校から帰ってきた。母親の差し出したクッキーを取りながら、サムは言った。「お母さん、学校でね、新しい友だちができたんだよ。」

「そう、それはよかったわね。」母親のドナは答えた。母親は、サムにミルクをついでそばに腰を下ろした。「お友だちってどんな人？名前は何ていうの？」

「マイク・ウィットイー」

「ウィットイー？ 前に同じ学校へ通っていたあの双子の兄弟？」

「そうだよ。お母さん。あのマイクとゲリーだよ。マイクは、ぼくと同じクラスになったの。」サムの表情は真剣そのものであった。

「お母さん、彼はきっといいモルモンになるよ。教会に誘いたいんだけど、僕の方でできるだろうか？」

「もちろんよ、サム。」母親がそう言い終わ

らないうちに、サムはもう表へ飛び出してまっしぐらにマイクの家へ向かっていた。気持ちは決まっていたので、一分でも惜しかったのである。そんなサムの姿をエガーズ姉妹は笑いながら見送っていた。「あの子は宣教師のようだわ。大きくなったら、きっと立派な宣教師になるでしょうね。」

しかし、息子の伝道はすでに始まっていたのである。

「うん、行くよ。何時だい？ ゲリーも連れてっていい？」マイクは、サムの誘いを心から喜んでいるようであった。

「もちろん、ゲリーも連れておいでよ。」サムは言った。「日曜日の5時に、家の角のところで待ってるよ。いいかい。」

「午前？ それとも午後？」

「午前に決まってるさ。」サムは答えた。しかし、マイクが本当にその時間に来るとは夢にも思わなかった。

しかしマイクは、サムの言ったことを本気にし、日曜日の朝午前5時ぴったりに、双子の弟と一緒に家の前の曲がり角で待っていた。ふたりは長いことそこで待っていたが、サムが来ないのであきらめて家に帰り、再びベッドにもぐり込んだ。

マイクは、あとでサムに電話をかけて、朝の5時に待っていたことを告げた。するとサムは笑い出した。マイクはそれが冗談であったことに気づいてこう言った。「ほくもね、少し早すぎるんじゃないかと思ったんだよ。」

その日の午後、聖餐会でマイクとゲリーは、サムやほかの執事たちが聖餐を配るのをじっと見ていた。「おもしろそうだね。」席に戻ってきたサムにマイクとゲリーがささやいた。「どうすれば、ああいうことができるの？」

「バプテスマを受けて、執事にならなければならないんだ。あとで詳しく教えてあげるよ。」サムは小声で言った。

集会の後、サムは、自分の父親は教会で副監督をしており、そのために壇上に座していることを説明した。マイクとゲリーは、それを熱心に聞いていた。また、男性の会員は12歳になってふさわしければ、神権の執事の職に聖任され、聖餐を配る特権が与えられることも説明した。

「神権って何？ 執事って何？ 聖任って何？」

その夜、マイクとゲリーはベッドの中で、少年たちに神権という特別なものを与えるこの新しい、ちょっと違った教会についていろいろと語り合った。

ほかにも、この教会には違ったところが数多くある。まず、会員が親切なことである。何人かの少年たちは、「ここに来て一緒にすわらない」と誘ってくれたし、大人の人たちも、ふたりの肩をたたいて「よくきたね」と歓迎してくれた。

それから、子供たちがたくさんいて、皆両親と一緒にすわっている。みんながよく握手をし、お互いを知っており、愛し合っているようであった。

まだ教会員でないふたりの少年が、名前しか知らない教会の集会に出席しようと、しかも日曜日の朝5時に待ち合わせの約束をして目覚まし時計を3時半に合わせる気になったのはなぜだろうか。

ふたりの少年はこう答えている。「ほくたちはまだ12歳ですが、どこかの教会へ行きたいと思っていたのです。前にも幾つかの教会に行きました。そして、教会にはいろいろと変

わった習慣のあることを知りました。それで、サム教会が朝の5時に始まるのなら、とにかくその時間に行ってみようと思ったのです。」

サムの両親はこのふたりについて次のように語っている。「これは、マイクとゲリーの宗教生活をとてもよく表わしているように思えます。ふたりはいつも、よく準備して、必ず

約束の時間を守るんです。」

マイクとゲリーは、両親からバプテスマの承諾を得るのに3年かかった。その間も、ふたりはそろって神権会、日曜学校、聖餐会、ミューチャルなどすべての集いに熱心に出席した。ふたりをここまで教会に引き付けたのは、得られた温い友情もさることながら、そ

まだ教会員でないふたりの少年が、名前しか知らない教会の集いに出席しようと、しかも日曜日の朝5時に待ち合わせの約束をして目覚まし時計を3時半に合わせる気になったのはなぜだろうか。

れ以上にふたりが、モルモン経と、モルモン経がジョセフ・スミスによって翻訳されたという事実に深い感銘を覚えたからである。また、救いの計画には畏敬の念を覚えていた。そして、ふたりは心からモルモン教会が真実であると信じていたのである。

ふたりはこう述べている。「ぼくたちはまた、末日聖徒イエス・キリスト教会の教師や友達、ぼくたちの質問に熱心に答えてくれたことを感謝しています。これは、これまで訪れた他の教会とはとても違っています。ほかの教会でこのような質問をすると、『神様だけが御存知です。私たちは知る必要がありません』とおっしゃるだけなんです。」

マイクとゲリーは、クラスや集いに出席し、福音について多くのことを学んだ。そのほかエガーズ家で開かれる普段の話し合いの中から、永遠の原則に関する深い知識を得た。

これは、ふたりの少年の熱意と誠意に動かされたエガーズ家の人々が、週に一度彼らに家を招いて福音に関する話し合いを持ってくれたからである。

そのうち、サムと、これまた伝道精神の旺盛な弟のスコットまでが、ほかの友達を連れてくるようになった。エガーズ兄弟姉妹は彼らも大歓迎してくれた。そのような友達の中に、不活発な家族の子供たちも含まれていることがよくあった。

そのようにして参加し始めると、今度は彼らが不活発な友達や、まだ教会員でない友達を連れてきてもよいかと尋ねるようになった。このようにして次第に人数が増え、この家庭の話し合いに何年間も、毎週20名以上の人々が出席するようになった。

その話し合いに話題を与えたのが、家庭の夕べのテキストである。エガーズ姉妹は、話

し合いの前に行なうレッスンの責任を引き受けてくれた。しかも、たびたびグループのひとりにレッスンの割り当てをし、若人が経験や知識を増すことができるように計画してくれた。

レッスンの後、青少年はどのようなささいなことでも質問するように言われていた。「わからないこと、あるいは気になっていることがあったらどんなことでも質問なさい。」彼らは常にこう励まされていた。

「すべての質問に、完全に、しかも丹念に答えるようにしました。いろいろな人々の意見をひとつひとつ検討しました。そして、最後に聖典を開いて結論を出すのです」と、エガーズ兄弟は語る。「福音の知識を得ることはもちろん大切なことですが、それよりも、彼らが自己の大切さに気づき、自分の両親や家

族に心からの愛と尊敬を示すようになることに特に気を遣ってきました。」

家庭の夕べで、リフレッシュメントは友情を深めるのに欠かせない。しかも、それはいつもグループのメンバーが積極的に自分から持ってくるのである。

そのほかグループでローラースケートやアイススケート、映画、キャンプ、ハイキング、魚釣り、海水浴、雪上パーティー、誕生日会なども開いた。また、伝道に出ている宣教師に荷物を送ったりもした。これらはすべて、若者たちが自ら計画し準備したものである。

また一年のうちで最大の行事と言えば、若者たちの両親を交えて行なうクリスマスパーティーである。「この年中行事は、教会とそのプログラムを家族の方々に理解していただくためにも大きな助けとなりました」と、エガ



ーズ兄弟は述べている。

サムとスコットは、このグループの活動に積極的に参加し、高校、大学時代を通じてずっとそこに出席する人々と親しく交わることができた。マイクとゲリーのバプテスマ会では、サムが話をした。また、エガーズ家族が聖餐会で家庭の夕べの発表をする時には、当然のこのように、マイクとゲリーがそこに加わっていた。

ある夏、マイクはエガーズ一家と一緒に、シェラス高原にハイキングを兼ねたキャンプに出かけた。その時彼と、グループのひとりのトム・ウォールも参加していた。まずフェリーでアラスカまで行き、それからアルカン・ハイウェーを下ってきて今回の旅行の最大の山場ともいえるテンプルスクエアを見学する6週間にわたる大旅行であった。

これはトムにとってひとつの人生の転機となり、翌年彼は伝道に出た。グループの中で彼が最初の宣教師になったのである。

「僕たちみんなが、同じ時に、同じ伝道部へ召されたらどんなにいいだろうね。」ある晩、双子のひとりがファイアサイドでそう言った。するとみんなはいっせいに笑い出し、こう言った。「絶対にそんなことはないよ。」「同じワード部の会員が、同時に、同じ場所へ召されることなんてあり得ないからね。」「不可能な話だよ。」

ところが、驚いたことにグループの中の3人が、同じ日に伝道の召しを受けたのである。しかもマイクとサムはエクアドル・キト伝道部、ゲリーはコスタリカ・サンホセ伝道部と、3人ともスペイン語の伝道部に召されたのであった。

彼らは、エガーズ兄弟（その時はすでにエ

ガーズ監督になっていた）が召した最初の宣教師であった。こうして3人は、同じ日に伝道本部へ入ったのである。

その翌年に、今度はスコットが同じスペイン語を話すコロンビア・ボゴタ伝道部へ召された。

エガーズ監督とエガーズ姉妹は次のように述べている。「彼らをロサンゼルス神殿に連れていき、主の愛を感じさせることができました。本当に素晴らしい特権を与えられたものです。」

若者たちは自分のエンゲウメントを受けた2日後に、最近帰ってきた帰還宣教師と連れ立って、午前6時に神殿に向かった。

さらにエガーズ監督は、こう述べている。

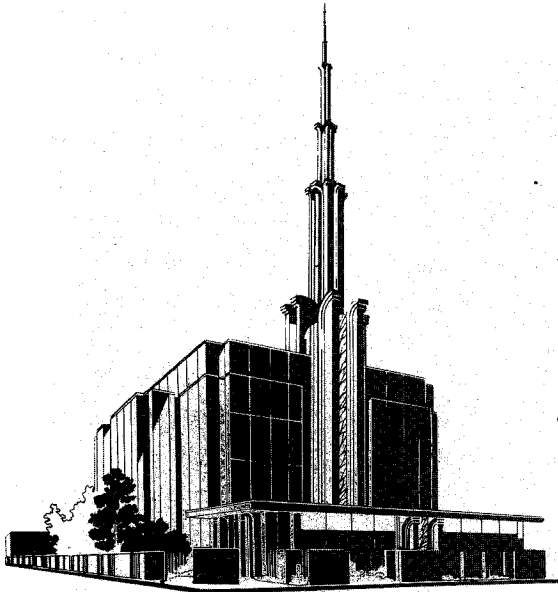
「彼らを見てみると心からうれしさがこみあげてきます。とても楽しい若者たちです。彼らの話を聞いていると、まるで海水浴にでも出かけるかのようです。主の宮居へ行くというので、みんなわくわくしているのです。」

サムが、初めてマイク・ウィッティーを集めに誘ってから11年になる。グループのほとんどは、それぞれ自分の道へ歩いて行った。そのうち9人は神殿結婚をし、5人の若者が伝道に出た。そしてグループの中から8人がバプテスマを受けた。その中にマイクとゲリーの妹のドナとシェリーもいる。そのほかにも町をふらついていた大勢の若者たちが、現在は強い証を持つ立派な人になっている。ひとりの友達を教会に招待したいというわずか12歳の少年の伝道のスピリットが、これほど大きな結果をもたらすとはだれが想像できたであろうか。マイクはこう述べている。「みたまがあれば何でもできるんです」と。

神殿参入の備えを！

東京神殿
準備委員会委員長
田中健治

待望の東京神殿の完成は間近です。すでに神殿長も決まり、あとは献堂式と儀式の開始される日を待つばかりとなりました。私たちは今、神様のみ前にふさわしい者となって神殿参入に備える必要があります。皆さんの備えはいかがでしょうか。以下に必要な備えについていくつか挙げてみましたので考えていただければ幸いです。



- 神殿推薦状発行のための面接は受けましたか。

12歳以上で、しかもバプテスマを受けて1年以上の方々にはできるだけ早く監督や支部長、またはステーキ部長や伝道部長より面接を受けて下さい。献堂式間近になりますと忙しくなり、混雑が予想されます。

- 神殿準備セミナー、あるいはオリエンテーション集会に参加しましたか。

監督、支部長は、神殿推薦状発行のための面接に先立って、神殿準備セミナーやオリエンテーション集会を開くことになっています。参入希望者はそれに参加しなければなりません。

- 4代の系図は提出しましたか。

神殿の儀式は11月4日より始められます。本人と先祖の儀式を受ける方は7月末日までに“家族の記録”を提出して下さい。

神殿をいただいたことを感謝するとも

を聖め高めることができます。

私たちは天使の声を聞き、みたまを感じ、想いを持つようにしましょう。そうする時に家族や隣人、指導者たちに感謝と親切な想いを。私たちはいつも誠めを喜んで守り、向上、言い換えれば生命の救いにつながり、人格の参入は霊的な体験となり、人格の

●指導者のためにお祈りを捧げていますか。

とを忘れないで下さい。

会員ひとりにつき、100人の方々をオーブンハウスに招待してみたいかがでしょうか。オーブンハウスは多くの人々に伝道するよい機会です。そのためには両親や友だち、知人などにいつもよい模範を示すことを忘れないで下さい。

●いつも誠めを心から喜んで守っていますか。

私たちは定期的に神殿に参入し、多くの儀式を受けることが大切です。そのためには毎日の生活時間を調整しなければなりません。自ら進んで計画するように努めて下さい。

●神殿のオーブンハウスを機会に伝道していただけますか。

今からそのために日程を組んで下さい。に全会員が参列できるように願っています。が開かれます。7月で初の神殿の献堂式一において2日間、6回の特別セッション長会の方々により、東京スチーキー部センタ全会員数の席が用意されています。大管献堂式には神殿に入ることのできる日本

●神殿の儀式を定期的に受けることができますように、毎日の生活時間を調整していただけますか。

に、尊いみ業を直接に預かられる指導者のためにもお祈りして下さい。また、お祈りの中には、必ず神殿に参入する決意と、神様からの祝福を得られる言葉を入れて下さい。

●献堂式に参列できるように日程は組みましたか。



150周年記念行事特集

教会設立150周年にちなんで、今年是全国各地でそれを祝う記念行事が催されています。スポーツ、音楽、演劇、バザー、社会奉仕活動など、内容はバラエティーに富んだものばかり。そこには、心身をきたえ、喜びを見いだそうとする聖徒たちの生き生きとした姿が満ちあふれています。今回はそれらのニュースをとりあげてみました。

日本横浜ステーキ部

●特別聖餐会（4月6日）

150周年を祝う特別聖餐会が各ユニットでもたれ、「ジョセフ・スミスと最初の示現」「神権の回復」「扶助協会の歩み」などをテーマにした話が多く兄弟姉妹たちによってされました。出席者には、末日に回復された福音についてさらに理解を深める機会となりました。

また、この日川崎支部では朝7時より1時間、多摩川河川敷公園にて早朝証会が催されました。はだ寒い上に風が強く、時々砂まじりの小石が飛び交う悪コンディション。しかし参加者は、それにもめげず熱心に証を発表し合いました。みたまに感じて涙を流さずにはいられない話もあり、天候とは逆に、参加者全員、平安を得ることができたのです。

●体力測定（4月29日）



横浜第2ワード部では教会のホールを利用し、老若男女約35名の参加のもとに体力測定が行なわれました。内容は敏捷性を調べる反復横飛び、柔軟性を調べる伏臥上体そらし、その他立位体前屈、垂直飛び、立幅飛び、腕立て伏せ、目を閉じての片足立ちの7種目。年齢別平均値に照らしながら記録を伸ばそうと必死な会員、若者に負けるものかとかんがえる年輩の兄弟、こんなはずではないと何回となく挑戦してみる会員など、それぞれ汗を流しながらの楽しいひとときを過ごしました。

日本名古屋ステークス部

●「セゴゆり」の集会（3月23日）

セゴゆりはユタ州の州花で、扶助協会の姉妹たちの本来持っている忍耐強さ、やさしさ、信仰強さを象徴しています。

この集会は、姉妹たちの持っているそれらの特性が、福音の実践を通じて、どのように育まれてきたかを発表する場でした。多くの姉妹たちがこの集会を通して福音を実践する大切さについてさらに認識を深めることができました。

●若い男性、若い女性のタレントショー

（3月29日）

タレントショーはユースカンファレンスの中に組まれた一プログラムです。各支部から選ばれた兄弟姉妹による歌あり、踊りあり、人形劇ありの楽しい内容でした。ユースカンファレンスには、はじめて参加した人も多く、友だちをつくるには絶好の機会となりました。



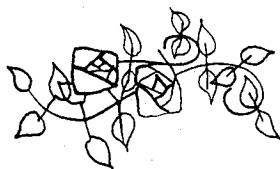
▲豊橋支部の人形劇

●「ハレルヤコーラス」の発表（4月23日）

主を讃美するために「ハレルヤコーラス」の発表が扶助協会員150名によってなされました。コーラスを通して姉妹たちが一致の精神を養うこと、歌うことにより、150周年を迎える喜びを表わすことが大きな目的でした。当日は、150人がホームメイキングの時に作ったコサージュをそれぞれ胸にし、心をこめての「ハレルヤコーラス」。参加者全員が喜びを分かち合いました。



▲扶助協会員150名によるハレルヤコーラス



●文化祭（4月29日）

開拓者を記念した演劇の発表——。

この劇は150周年記念のために教会用に創

られたものです。オリジナルが英語のため、翻訳しなければなりません。脚色し、スタッフ、キャストを決めるまでは大変で、実際にスタートしたのは1月中ば過ぎたの事です。それから3カ月、この短期間での発表に心配しましたが、関係者は全員一丸となつてがんばりました。その結果、発表は大好評でした。



演劇に出演の兄弟姉妹

日本大阪北ステーキ部



初等協会のコーラス発表

●作品展（4月11日）

大阪北ステーキ部は150周年記念行事を前期大会（4月11日）と後期大会（11月24日）とに分けて行なうように計画されました。

前期大会は、神戸ステーキ部との合同による作品展。翌日がステーキ部大会のため、盛況を見せました。ステーキ部長をはじめ、高等評議員、各ワード部の監督が前日より徹夜で作品の展示に励みました。個人の力作ばかり



展示された作品

り180点が揃い、他に初等協会の子供たちによる歌の発表などもあり、後期大会にはさらに盛り上がりを見せようと兄弟姉妹たちは張り切っています。

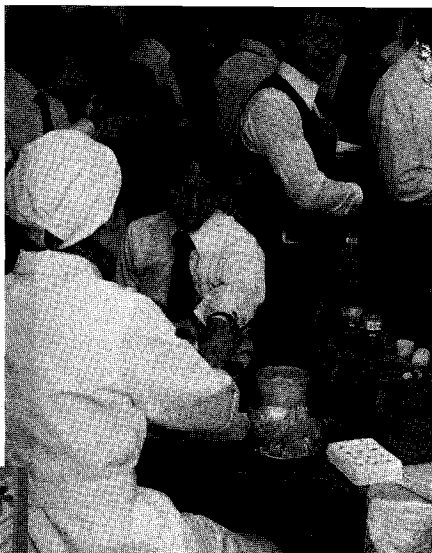
日本福岡ステーキ部

● 献血と慈善活動（5月5日）

教会員として社会に何かささやかなプレゼントができないものかと考え、献血と恵まれない子供たちへの慈善活動が計画されました。

献血にはちょうど150名が協力し、また、慈善活動の方は扶助協会の姉妹たちによる手

150周年記念行事に
集う兄弟姉妹たち



献血風景

づくりのパイやクッキー、ケーキ等が売られ親せき、友人、知人など、多勢の人々が買われて沢山の利益を得ました。利益のうちいくらかは子供たちの身体障害施設へ寄附されたとのこと。

これらの催し物を通じて教会を知った人も数多くいます。伝道にもつながった有意義な子供の日でした。

聖徒の道10月号に東京神殿記事の特集！

東京神殿の完成を祝って、聖徒の道では10月号にその関係記事の特集いたします。全64ページ、美しいカラー写真を織りませている内容は今までには見られない豪華版です。ぜひ多くの方に購読していただくようお願いいたします。どうぞご期待下さい。

